

令和元（2019）年度 第6回
大韓民国ソウル特別市江東区への青少年交流団
派遣事業報告書
（抜粋版）

～目次～

江東区の概要・交流の経緯	2
事業日程	3
記録写真	4
団員感想文・研究テーマ	11
団員・保護者アンケート	47

※ホームページでの公開にあたり、団員の個人情報に配慮し、氏名を伏せる等の加工を行っています。

ソウル特別市江東区の概要

北漢江と南漢江は太白山脈に源を發し、ソウルへ向かって流れる。江東区はこの二つの河川が合流する場所に位置し、東部ソウルの中心都市となっている。

6千年の昔に遡る先史時代の遺跡が岩寺洞（アムサドン）に残されているが、百濟時代の初期には、ここ江東区に都が置かれ、以後、高麗時代には広州牧、朝鮮時代には広州府と名を変え、1906年には京畿道九川面となり近代都市の基盤が整えられた。繊維・織物・化学薬品および煉瓦などの製造業、園芸農業が盛んであり、近年は生ごみの堆肥化、公園の整備などに取り組み、21世紀の環境都市を目指している。

人口	430,684人	(2019年10月現在)
面積	24.56k㎡	



ソウル特別市



武蔵野市と江東区の交流の経緯

西暦	年号	月	内容
1996年	平成8年	9月	市長がソウル訪問の際、江東区庁長と懇談。
1997年	平成9年	7月	市長、市議会議員団が江東区を訪問。職員派遣研修協定を締結。
1999年	平成11年	4月	職員相互派遣研修実施(6ヶ月)。
2000年	平成12年	4月	江東区庁長来訪。本会議場で講演。市民交流推進に関する協定を締結。
2003年	平成15年	12月	江東区女性団体系来訪。本市女性団体とキムチ作りを通して市民交流。
2004年	平成16年	10月	武蔵野市民団が江東区訪問。ホームステイ、食文化を通して交流。
2005年	平成17年	9月	江東区から青少年交流団(中学生20名)が来訪。
2006年	平成18年	7月	青少年交流団(高校生9名)が江東区を訪問。
2007年	平成19年	8月	江東区から青少年交流団(中学生12名)が来訪。
2010年	平成22年	7月	青少年交流団(中学生8名、高校生4名)が江東区を訪問。
2011年	平成23年	9月	江東区から青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が来訪。
2012年	平成24年	7月	青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が江東区を訪問。
2013年	平成25年	8月	江東区から青少年交流団(中学生5名、高校生7名)が来訪。
2014年	平成26年	7月	青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が江東区を訪問。
2014年	平成26年	9月	江東区副区庁長、職員6名が防災安全研修のため来訪。
2016年	平成28年	8月	江東区から青少年交流団(中学生3名、高校生8名、大学生1名)が来訪。
			市長が江東区を訪問。
2017年	平成29年	5月	江東区庁長、江東区サッカー少年団来訪。
		8月	交流20周年記念事業「韓国江東区・忠州市への旅」で江東区を訪問。
			青少年交流団(中学生8名、高校生4名)が江東区を訪問。
2018年	平成30年	5月	江東区野球交流団来訪。
		8月	江東区から青少年交流団(中学生7名、高校生5名)が来訪。
2019年	令和元年	8月	青少年交流団(中学生4名、高校生8名)が江東区を訪問。

令和元（2019）年度 事業日程

日時		内容	備考
6/16（日）	10：00～13：00	合同結団式、第1回事前研修	
6/25（火）	18：00～20：30	第2回事前研修	
7/9（火）	18：00～20：30	第3回事前研修	
7/25（木）	13：00～16：30	第4回事前研修	
8/1（木）	7:30	市役所北玄関前集合	
	7:45	出発式	※市ポロシャツ着用
	8:00	出発式後、市役所出発	
	10:00	羽田空港着後、搭乗手続き	
	12:05	羽田空港発（021075便）アジアナ航空	エコノミークラス、機内食
	14:25	金浦空港着（入国手続き）	
	16:30	江東アートセンター見学	
	17:30	江東区役所表敬訪問、歓迎会、対面式	
	18:00	青少年、各ホームステイ先へ	ホームステイ
8/2（金）	7:30	区役所集合、移動	
	9:30	岩寺洞先史遺跡地見学	
	11:30	昼食（仁寺洞）	
	12:30	仁寺洞自由散策	
	15:00	伝統楽器体験	
	16:00	貞洞劇場で伝統ミュージカル鑑賞後移動	
	18:30	区役所解散	ホームステイ
8/3（土）	9:00	区役所集合、移動	
	10:00	Nソウルタワー展望台	
	12:00	昼食	
	13:00	南山自由散策	
	14:00	韓国の家：韓服体験、韓紙工芸体験	
	17:30	移動、区役所解散	ホームステイ
8/4（日）		ホストファミリーと自由行動	
	18:00	さよならパーティー	※市ポロシャツ着用
	20:30	さよならパーティー終了	宿：オリンピックパークテル
8/5（月）	9:30	チェックアウト、移動	
	10:00	自主主導学習センター見学	
	10:40	金浦空港へ	
	11:40	昼食	
	15:30	金浦空港発（021045便）アジアナ航空	エコノミークラス、機内食
	17:35	羽田空港着（入国手続き）	
	18:30	武蔵野市役所へ移動	
	21:00	帰国式 市役所東棟1階ロビー 解散	
8/28（水）	13：00～16：30	事後研修	
9/6（金）	19：00～20：30	合同報告会	

記録写真



事前研修



事後報告会

第1日目 8月1日 (木)



出発式 代表あいさつ



羽田空港へ出発



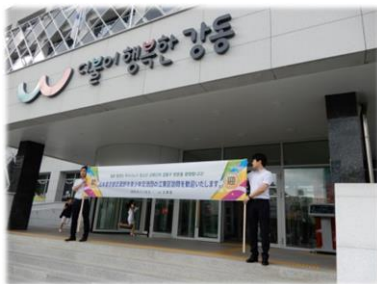
アジアナ航空機内食



江東区アートセンター



江東区アートセンター



江東区役所



歓迎式



歓迎式代表あいさつ



第2日目 8月2日 (金)



岩寺洞先史遺跡地見学



昼食



伝統楽器体験



貞洞劇場

ミュージカル見学

第3日目 8月3日 (土)



江東区役所



Nソウルタワーへ向かう途中



Nソウルタワー



Nソウルタワーからの展望



昼食



韓国の家



韓紙工芸体験



韓服体験

第4日目 8月4日(日)

さよならパーティー (オリンピックパークテル)



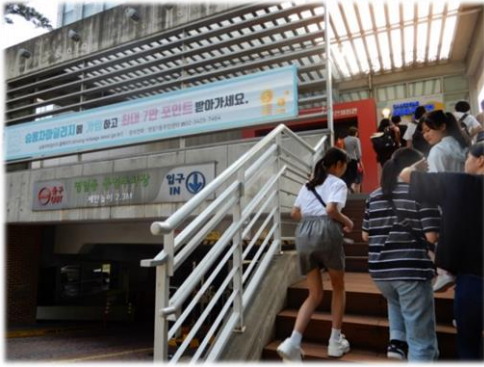
御礼のあいさつ



御礼のダンス



第5日目 8月5日 (月)



自主主導学習センター



昼食



金浦空港



帰国式 代表あいさつ

事後研修

研修のまとめとして、グループに分かれて次回の派遣事業参加者募集のポスターを作成

1. 日本と韓国の違い 2. 食べておいしかったもの

① お風呂 皆さん風呂。アツとあり、日本には浴槽とシャワーを浴びる場所がある。でも、韓国は一般的に家庭はシャワーとトイレが一緒になって、湯船に行かなくていいという銭湯に行こうとする。

② トイレ 韓国ではほとんどトイレは「E」流とトイレは「L」流がある。Eは水を流すだけで、Lは水を流す。でも、これはトイレの流す方向が違ってくる。在韩国は、流す方向をよく読んでおく。

③ 鍵 日本では金属製の鍵が主流ですが、韓国では番号を入力したり、指紋で開錠したりするスマートキーが主流です。だから韓国の人に日本に来て、よて鍵を忘れた家を出ては24時間待たせろ。

1位 韓国のソビビバチヂミ

2位 キムチ・キンパバナナウエ

3位 チーズハットグサムギョプサル

シャーシャー麺

※あくまで個人の意見です。

韓国江東区への青少年交流団派遣事業参加者募集

海外で一生の思い出を作りませんか？

3. どんなことをしたか？ 4. ホストファミリーとの思い出

YN氏: ノルバン(カラオケ)、明洞、市場に行きました。スペインを履き、オリジナルのグッズを買いました。

KH氏: 漢江沿いでサイクリングした。明洞とロッテヤングタワーに行きました。

HM氏: ロッテワールド、明洞、市場、ロッテモール、北村韓屋村に行きました。

Y.N氏: 高3のペアのお姉ちゃんから、最終日にカラオケに行くと、愛おしいものに20時間も一緒にお話ししてくれました!!

K.H氏: ホストファミリーとアパートの屋上で夜景を見たのが一番楽しかった!!

H.M氏: 家でペアの子と2人が女子学生アイドル、セブスの動画をみて馬鹿いじり!!

韓国江東区への青少年交流団

第2の家族 派遣事業 参加者募集!!

ペアの子と自撮りたくさんしたりLINEを交換したりして!!

辛い食べ物が多すぎる!!

「チヂミ」が可愛い!!

距離が近すぎた!

KOREA JAPAN

団員の子と仲良くしてた

ホテルの子にメロメロを教えた

おすすめスポット

- 1 明洞
- 2 ロッテワールド
- 3 弘大

町でも店でもK-popが流れてる

JSMが安い!!

流行り先取り

韓国の人々親切!!

国境を越えた友達ができる!

韓国江東区への青少年交流団派遣事業 参加者募集!

GANGDONG-GU

ホストファミリーとの思い出

- トッポギをお母さんと一緒に作ったこと。
- ホームステイファミリーと沢山喋ったこと。
- ペアの子とロッテワールドに行き、お昼飯を食べたこと。
- 0歳 毎晩お風呂を洗ったこと。

韓国を訪問しての感想

今回この派遣事業に参加して、ホームステイをしたり、韓国の街などに行ったりしたこと、韓国のこと、そして客観的に見ることができた日本のことも沢山知ることができました。

ニュースなどでは知ることのできない現地の人の温かみを直に感じ自分自身とても成長することができ、とても楽しかったです。

韓国の食べ物はいっぱいおいしいが、どの食べ物もおいしかった。有名な韓国に旅行では味わえない思い出に行けるこの事業は、どんな人でも参加することが出来ます。ぜひ参加して下さい。

日本と韓国の違い

- 日本は昼に遊ぶことが多いが、韓国は夕方から夜まで遊ぶことが多い。
- 韓国の人が使う箸は、鉄製なのが、日本人が使うと手がつかない。
- ウェブサイトの検索方法は、日本のように「検索」ボタンがない。

人生初のホームステイで学んだこと（高1・男子）

僕が韓国に興味を持ち始めたのは中学1年生の冬ごろからだだったと思います。最初はK-POPを好きになり、そこから韓国語も勉強し始め韓国の事について色々調べるようになりました。今年の冬に僕は家族で一度韓国に旅行で訪れています。その時にも学ぶことは多くありましたが今回のホームステイではより多くの事を学びました。

まず僕が学んだ事は語学力を伸ばしたいなら実際に喋ってみることが大事だという事です。よく「外国語を上達させたいならその国の恋人を作れ」と言いますが、まさにその通りだと思いました。お互いの事を理解しようとして片言でも良いからとにかく喋って伝える、これが何よりも大事だと感じました。僕はミンジェととにかくたくさん喋りました。間違えることも多くありましたがそんな時はミンジェやお母さんが教えてくれました。日本に帰ってから自分の韓国語がすごく上達していることに驚きました。教科書を見るよりも実際に話してみるという事が何より大事だと身をもって学びました。

そして今回のホームステイで最も感じたことは政治の問題と民間との交流は全く違うということです。これは当たり前のことです。しかし、当たり前のことだと分かっているながらもなかなか実感する事の出来ないものでした。

今日の日韓関係は最悪なものだと思います。歴史や領土、貿易など様々な面で多くの問題が残っています。韓国の街中では連日デモが起こっていて、韓国についてのニュースを見ることも多くなってきたと思います。実際に韓国でNO JAPANと書かれた紙を持って歩いている女性の方を見かけたり、僕のホームステイ先のお母さんのカカオトーク（韓国のLINEのようなもの）の名前が不買運動のシンボルマークである「N●」だったり、反安倍政権を感じることは多くありました。しかし、僕が現地で悪口を言われたり嫌がらせを受けたりという事は全くありませんでした。むしろお母さんはとても優しく、本当の息子のように接してくれました。また、初日に訪れた親戚の方の家では叔父さんにもおじいちゃんおばあちゃんにも歓迎して頂きました。日本のメディアで報道されているのはほんの一部なのだと実感しました。

日本の事を「近くて遠い国」とミンジェが言っていましたが、まさにその通りだと思います。しかし韓国は日本にとって地理的にも近く、文化交流も盛んな国です。本来はそのようなことはあってはならないと思います。この状況を変えていくのは韓国に行って交流をした僕たちだと思います。この交流でできた絆を壊さずに、さらに仲を深めていっていき政治にどんな問題があっても交流を続けていくことが大事だと思います。そしてその交流の輪を広げていき時間をかけて日韓関係を改善していくことが僕たちの使命だと思います。武蔵野市と江東区の職員の方々にはこの交流をこれからも続けていってほしいと思います。



韓国と日本のマナーの違い、またその理由

● このテーマを選んだ理由

韓国と日本は共に目上の人に対しての礼儀を重んじる国ですが、どちらかといえば韓国の方がそのマナーは厳しいといわれています。実際にはどうなのか。

またどうしてそうなったのかを知ることで韓国という国についてより深く知ることが出来ると思ったのでこのテーマを選びました。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

<調べた事>

- ・韓国では親にも敬語を使うらしい
- ・お酒を飲むときは飲み口をひとに見せないらしい
- ・目上の人より先に食事に手をつけてはいけない

● 考えていたこと

マナーと言っても色々なものがありますが特に分かりやすいのはその言語だと僕は思います。例えば韓国では男性と女性で姉や兄の言い方が決まっていたり、日本と同じように話す相手の立場によって一人称が変化したりと言語にも礼儀を重んじる姿勢が表れているように感じます。僕が韓国語を勉強する時にも同じ「です」「ます」という意味なのに言い方が違うものがあり、ややこしい敬語の難しさや奥深さを感じます。そんな韓国のマナーについて多くの事を知りたいです。

● 現地に行ってわかったこと

事前に調べていた通り韓国では日本よりも目上の人へのマナーは厳しいように感じました。僕も何度か注意されることがありました。しかし、「親にも敬語を使う」ということは無いのではないのかと感じました。僕のホームステイ先ではペアのミンジェが親に向かって敬語を使っている所は見なかったような気がしました。日本よりは厳しいですが思っていたほどではありませんでした。

食事のマナーについては日本とかなり違うと感じました。家庭ごとにルールは違うと思いますが僕のホームステイ先では日本でいつも気にしているマナーを意識する必要がなくとても楽でした。連れて行ってもらったレストランでも隣の椅子に足を乗せながらご飯を食べている方がいて驚きましたが、周りは気にしていないように見えました。食事のマナーの面では日本と大きく異なっているように感じました。

● 結論

日本と韓国は近い国なのでマナーが似ている部分が多くあったように感じました。特に目上の人に対するマナーはとても似ていると感じました。喋っていても敬語の文化も似ているので日本の敬語の感覚でも違和感がありませんでした。

一方で食事のマナーは大きく異なっていました。日本人からすると汚く感じるようなことも多く見受けられました。しかし世界には様々な国があり、その数だけ違うマナーがあります。自分の国の価値観で判断せずに、それがその国のマナーだと受け入れることが重要だと感じました。

挑戦することの大切さ（中1・女子）

私は武蔵野市青少年交流団の一員として韓国ソウル市江東区に行きました。私にとって初めての海外体験です。今回の経験を通じてもっとも強く思ったことは、実際に様々なことに挑戦することの大切さです。

この夏、私たちの出発前から日韓関係が悪くなっていることがニュースなどでさかんに報道されていました。私は「韓国の人たちがみんな日本や日本人のことを大嫌いだったらどうしよう」ととても不安に思いました。行きの飛行機の中でも楽しみな気持ちと不安な気持ちでいっぱいでした。

その不安が消えたのは、ペアの子と江東区の市役所で初対面したときです。ペアのヤン・ソヒョンさんは、私に日本語と英語で書いた手紙をくれました。「必要なものがあるときはすぐ助けるね。」という言葉に、不安と緊張が一気にほぐれました。ホストファミリーのお母さんは日本語がとても上手で優しい方でした。ほとんど日本語しかしゃべれない私に、時には翻訳アプリも使いながらたくさん話しかけてくれました。お母さんは、日本が大好きで「日本の温泉に行ったことがある」と言っていました。また「日本の漬物やラーメン、宮崎駿監督の映画が好きだ」とも言っていました。宮崎駿監督の映画は韓国でもとても人気があるそうです。私は、韓国の人たちが日本のことに興味を持ってくれていることを知って、とてもうれしくなりました。

また今回の交流プログラムでは日本と韓国の生徒たちが3日間一緒に活動を行ったことで、ペアの子やホストファミリー以外の人たちともたくさん話ができて、とても楽しかったです。学校で習った英語も実際に使うことができて、通じた時はとてもうれしかったです。でも韓国の人たちとたくさん話してわかったことは「たとえば言葉が通じなくても、ジェスチャーなどで思いは十分伝わるし、同じ人間同士心はつながっている」ということです。それと同時に今まで私は日本国内しか行ったことがなかったので「日本語は結構広い範囲で使える便利な言葉だな」と思っていたけど、実際は、とても小さな範囲でしか使えないということを改めて感じました。自分は今まで「井の中の蛙大海を知らず」だったことに気がきました。

文化体験では韓国の伝統工芸の鏡を作りました。型紙に日本の和紙によく似た丈夫な紙を貼って作ります。私は韓国にも和紙のような紙があることを知らなかったのも、とても驚きました。

今回韓国に行ってみて、韓国のことも日本のことも新たな発見がありました。韓国に行かなければわからないことがたくさんありました。本当に「百聞は一見に如かず」だなと思いました。そして、日本と韓国の関係が厳しい中でも、初めての異文化交流に挑戦してみて、本当によかったなと思いました。韓国で学んだことをこれからの生活に活かして、何事にも積極的に取り組んでいこうと思います。

日本と韓国の違い

● このテーマを選んだ理由

初めて韓国に行くので、韓国はどんな国なのか、街の様子や日常生活で気づいたことや日本と違うこと・同じことを見つけてまとめたいと思ったからです。

実際に韓国に行ってみなければわからないことを調べたいと思ったので、このテーマを選びました。

最近急に日韓関係が悪くなりニュースなどでよく話題になったので、韓国のほんとうの姿はどうか、自分の目で確かめて来ようと思いました。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

(事前研修)

- ・トイレトペーパーを直接トイレに流してはいけなくて、ゴミ箱に捨てなければいけない時があるらしい。
- ・夏場はお風呂にお湯は張らず、シャワーだけをするらしい。
- ・ホテルのお風呂場のように、浴槽の中に入ってシャワーで全身を洗うらしい。
- ・冬の寒さが厳しいため、オンドルと呼ばれる床暖房がある。
- ・韓国は一軒家が少なく、アパートが多い。アパートは高層の建物が多い。

(自主研修)

- ・7月半ばに母・弟と一緒に初めて新大久保に行きました。街には活気があって韓国アイドルのグッズの店や化粧品、雑貨店、チーズハットグの屋台や韓国料理の店はたくさんの人でにぎわっていました。悪いムードはまったく感じられませんでした。その一方で、韓国では日本製品の不買運動や抗議集会などが起こっているとテレビでよく見ました。日本と韓国の人々の反応にはわりと差があるなと感じました。

● 現地に行って気づいたこと、わかったこと

- ・行きの飛行機より

上空から見ると、郊外のようなのに高層ビルが密集しているところがあり、日本の住宅街の景色とは違うなと思いました。

- ・地下鉄

韓国の地下鉄には切符がなく、日本のSuicaやPASMOのようなICカードでした。料金には運賃と保証金が含まれていて、使い終わって専用の機械にカードを入れると、保証金が戻ってきます。カードは何度も使い回しするそうです。日本の切符が使い捨てなのに対して、エコでよい取り組みだなと思いました。地下鉄の座席は日本のように柔らかくなく、硬めな素材でした。また、日本と同じで優先席がありました。



- ・一般家庭の暮らしについて

韓国のアパートは事前研修で聞いていたように高いビルが多かったです。私のホストファミリーのアパートは16階建てでした。何棟も集まって団地のようになっていて、団地の中に子どもが遊べる公園のような共有スペースがありました。

また、事前研修でも聞きましたが、トイレトペーパーはゴミ箱に捨てる仕組みになっていました。そして、お風呂にお湯は張らず、浴槽内に入ってシャワーで体を洗いました。

・食事について

韓国では、日本のように取り箸や取り皿というものはなく、キムチなどはすべて直箸でとります。箸は金属で平たいものでした。お母さんが「お皿は手で持つてはいけないだよ。」と食事のマナーを教えてくださいました。

また、汁物には日本とは違って、ご飯を入れて食べることは普通のことなので私も汁物にご飯を入れて食べました。

(初日の夕食はサムゲタンでした。)

また、韓国では辛いものはとことん辛くて、甘いものはとことん甘くて、とても驚きました。

お母さんと一緒にトッポギを作りましたが、お母さんが辛いコチュジャンをどんどん入れるので、ビックリしました。食べてみたら、おいしかったのですが、すごく辛かったです。

4日目に冷麺を食べに行ったのですが、麺が細くてしかも長くてとても驚きました。

・乗り物について

韓国の救急車は日本の救急車とは違い、光る部分が緑色でした。

・街の様子について

街の様子は日本とはさほど差はありませんでしたが、少し道幅が広いように感じました。

また、歩行者用信号機には青の時間があと何秒かカウントダウンされる部分がありました。日本では見たことがないので、いいアイデアだなと思いました。

また、お店ではレジ袋が有料の所が多かったです。

・生活の違い

韓国ではエスカレーターに乗るときに立つのは右側で、東京とは違うなと思いました。

また、ホストファミリーのお母さんから聞いたのですが、韓国の中学生の夏休みは日本の夏休みより短く約1ヶ月ぐらいだそうで、実際私のペアのソヒョンさん(中3)の夏休みも約1ヶ月でした。驚いたのは、夕食後に外出することです。ホームステイ初日に、「散歩に行きたいですか?」と聞かれて、夜9時くらいに家を出ました。30分くらい散歩してソヒョンさんの妹リンさんの小学校を見たりしたあと、パッピンスの店に寄って、家に持ち帰って食べました。私は夜に甘いものを食べる習慣がないのですごくびっくりしました。また、子どもたちだけで外出することがあるのにも驚きました。2日目の夜はソヒョンさんともう一組のペアの4人でトッポギの店に行きました。私は友だちだけで外食したことがなかったので、ちょっと緊張しましたが、楽しかったです。

・日韓関係の悪化について

歩道のわきに古い木造の小屋があつて、壁に貼り付けられている布に、赤い文字でなにか書かれていました。日本のことを悪く言っているのかな?と感じました。朝お母さんが読んでいた新聞には河野外務大臣とカン・ギョンファ外務大臣がそっぽを向いている写真が大きく載っていて、何が起きているのかなと、ドキドキしました。

日本製品の不買運動など、過激な行動は直接は目にしませんでした。

● 結論

私は出発前には、日本と韓国は地理的に近いし、違うところは少ないんじゃないかなと思っていました。しかし



実際は日本と同じと思うことより違うと思うことの方が多く、いい意味でとても刺激を受けました。

日韓関係が悪い時期なので行く前はとても不安だったのですが、出会った人たちはみんな優しかったです。こんなときでも人と人との交流はできるんだなと思いました。

今回日本と韓国の違いをまとめてみて、日本だけがすごい！とか韓国だけがすごい！などという意地の張り合いよりも、お互いより国内が安定していけるように日本と韓国はお互いのよいところを真似しあって、より良い世の中を作ってほしいなと、思いました。

韓国のホームステイを経験して（高2・女子）

私は武蔵野市の青少年派遣団員の一員となり、韓国を訪れることができた事から日本では経験できない沢山の事を自分自身に身につける事が出来たように思います。私は、このホームステイに行くまで一度も海外に行ったことがなかったので、初めて日本を出る事やホームステイ先の方々と上手くコミュニケーションを取る為にはどうすればいいのだろうか、と大きな不安を抱えていました。その一方で、行ってみたいとずっと興味を持っていた韓国に行き、韓国での生活を実際に体験できる事への期待がとても大きかったです。現地に着き、初めてペアである高校1年生のジョンビンに会った時、ジョンビンは笑顔で話しかけてくれてとても安心しました。私が全く韓国語を話すことが出来なくてジョンビンとはほとんど英語での会話だったので、最初は通じづらい事も多かったのですが、だんだんと意思疎通が出来るようになり毎日沢山の話をして沢山笑い合えるようになりました。ジョンビンは日本のアニメについて話したり、これを日本語では何というのかとたずねたり等と日本にとっても興味を持っていて、お互いの言語が違う中での一つ一つの会話は学ぶべきことが多くありました。また、ジョンビンのお父さんが日本に住んでいたことがあり、日本語がとても上手だった為、韓国の素敵さに気づかされることが多々ありました。韓国の方と親しく話したのも初めてでしたが、ホームステイ先の家族の方々は私をその家族の一員であるように優しく接してくれて、私の韓国語はとても未熟でしたが、単語だけでも頑張って話す物凄く喜んでくれて、それが本当に嬉しかったです。

このホームステイは沢山の方々のお陰で成り立っているので皆さんにとっても感謝しています。ホームステイ先の方々には直接お世話になって、韓国語が話せたら、感謝の気持ちを沢山伝えたいのという悔しい思いと別れるのが辛い思いで泣いてしまい、ありがとうとしか伝えることが出来なかった所以我はジョンビンと約束しました。次回会う時には、ジョンビンは日本語を、私は韓国語を話せるように頑張ろうと話しました。言語が違っても同じ時間を共にすることでこんなにも通じ合える事を知りました。そしてバスでの移動時間に他のホームステイ先の韓国人の子とも友達になり、他国に沢山の友達が出来たように感じ、とても嬉しいです。今回の韓国へのホームステイに参加することが出来て、韓国のことがもっと大好きになりました。この5日間での経験は私のこれからの将来に大きな影響を与えてくれたように思います。ありがとうございました。

韓国料理について

● このテーマを選んだ理由

私が韓国料理に興味を持ったのは、友達と初めて新大久保に行った時です。新大久保は沢山の韓国料理屋があります。私が行ったお店の韓国料理はとても美味しかったことから、そこで食べた韓国料理は現地ではどんな味や違いがあるのだろうと興味を持ち、韓国にホームステイする前からとても楽しみにしていたからです。そして韓国人の方々の毎日食べている家庭料理を実際に見てもっと知りたいと思ったからです。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

韓国も日本と同じく米が主食で、肉料理や魚料理、野菜を使った料理等が加わり栄養バランスの取れた献立が特徴です。韓国の米は日本同様に粘り気があって炊いて食べるのに適していて、お粥にしたり炒めて食べたりと様々な米料理があります。韓国独特の辛さを引き出しているのは唐辛子です。唐辛子のほとんどは生のまま、あるいは粉状にされています。韓国料理はニンニクやネギとも一緒に使われ、特にニンニクの消費が多いと言われています。他にも韓国では、発酵食品が豊富であり韓国を代表する食べ物であるキムチもその1つです。韓国の冬はとても寒く、その寒冷な気候を反映してスープや漬物が発達している。

● 現地に行ってわかったこと

韓国といえば、キムチや焼き肉というイメージが私の中では強かったのですが、韓国ではフライドチキンが庶民のグルメのキングであるそうで、私もそれを食べました。フライドチキンにはいくつもの味つけがされており、甘辛いタレを絡めた赤いこってりとしたソースのチキンやハニーソースがかかった甘いチキンもあります。韓国も日本と同様に暑かったので、日本でも韓国料理として有名な冷麺を食べました。冷麺の麺はもちもちとしていて、汁は氷が混じっていて冷たく、漬物やとんかつ等と一緒に食べます。また、私は今まで口にしたことのない味を韓国で体験しました。それはシッケと呼ばれる韓国でデザートとして飲む甘い飲み物で日本の甘酒のようなものです。もち米、麦芽粉、水、砂糖、生姜で作ることが出来、あっさりとした甘い味でした。

● 結論

日本で有名な韓国料理として知られている料理の他にも美味しい料理が韓国には沢山ある事に驚きました。また韓国について知らない事が多くあるので、少しでも興味をもった事については調べてもっと他国への関心を深めていきたいです。



感想（高1・女子）

私は今回、江東区への青少年交流団に参加して、広い視野を持つことができたと思います。特に、江東区でのホームステイは、韓国の一般的な生活を体験することで学ぶことができたことが多かったと思います。私のホストファミリーは、中学2年生の女の子、11歳の弟、両親の4人家族でした。私は人見知りということもあって、うまく会話ができるのかとても不安でした。しかし、ホストファミリーの方々はとても明るく、優しく声をかけてくださったので、リラックスして生活することができました。私が行きたいと思っていたところには、遠くても連れて行ってくださり、移動中も韓国の文化やマナーなどたくさんのお話を説明してくださいました。また、食事も、韓国人がよく食べるものを体験できたのでとても面白かったです。特に1日目に食べたチキンは、外見は日本人がよく食べるチキンと似ていましたが、食べてみるとすごく辛く、2個ほどで食べられなくなってしまいました。しかし、ホストファミリーの方にそれを伝えると、「韓国人はいつも辛いものを食べているからこのくらいの辛さは平気だよ」と言われ、とてもびっくりしました。

文化体験では、チマチョゴリ体験が印象に残っています。前から、チマチョゴリを着てみたいと思っていたので、私はとても楽しみにしていました。体験用だからか、着るのは簡単でしたが、とても重厚感があってきれいでした。ペアの子や、交流団の友達と写真を撮ることができて、とても楽しかったです。そこで食べた韓国の伝統的な料理は、食べやすいものが多く、おいしかったです。キムチが入っていたりと、今と少し似ているのではないかなと思いました。

4日目のホストファミリーとの自由行動では、韓国の高校の制服をお店で借りて、ロッテワールドに行きました。ロッテワールドは、韓国のディズニーランドのようなもので、半分が室内、もう半分が屋外になっている遊園地です。私は一番、4Dシューティングシアターという乗り物が楽しかったです。これは、4Dのお化け屋敷で、映像内に出てくるお化けを椅子の横にある銃で撃って、倒すというアトラクションでした。最後に、倒した数の順位が発表されるのですが、私は真ん中のほうであまり活躍はできませんでした。ホストファミリーは、ベスト5に入るほど上手でした。

その後は、ホストファミリーとお別れ会をしました。お別れ会の時には、別れが悲しくなるといわれていましたが、私は最初、そんなに悲しくはないだろうなと思っていました。しかし、いざその会が始まると、4日間の思い出がよみがえってきて、帰りたくないなと思いました。言葉や文化など、壁も多く、とても苦労した旅ではありましたが、韓国の方々の優しさに触れることができ、とても楽しかったです。この経験で得たものを、日常生活でも生かせるように、これからも頑張りたいと思います。今度ホストファミリーと会うときにはもっと会話ができるように、これからも韓国語の勉強を頑張っていきたいと思います。

韓国の芸術について

- このテーマを選んだ理由

私には、好きな韓国人のクリエイターさんがいる。

前回、韓国に行った際に韓国人の方が描いたたくさんの作品を見て、韓国人の方が描いたイラストなどの芸術に興味を持ったから。

実際に韓国に行き、韓国の芸術に直に触れたり、日本と韓国の芸術の違いについても、詳しく知りたい。

- 行く前に調べたこと、考えていたこと

韓国は、日本に比べて IT 技術が進んでいるため、外国の情報が入ってくるにより新しい芸術が確立されているのではないかと。

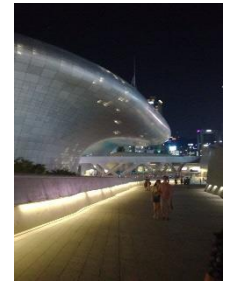
ソウルには、たくさんの雑貨屋さんで、韓国のクリエイターさんが作ったグッズなどが売られていて、そのお店をみることは日本から来る観光客の観光の目的にもなっている。

- 現地に行ってわかったこと

東大門デザインプラザというところに行った。そこは、デザインについての展示や韓国のデザイナーさんの商品を販売している施設だ。私は一度、ここに行ったことがあったが、何度見ても、東大門デザインプラザの建物には驚かされる。これは、ザハ・ハディドという建築家がデザインしたもので、とても複雑な作りになっている。彼女は、日本の新しい国立競技場の最初の案



を作った人で、とても有名な建築家である。自動ドアやライトなど、普通の建物ではあまり工夫をしないところまで、工夫をしていた。特に夜は、ライトアップされていて、UFO のようにも見える。日本にはこのような規模の建物はあまりないため、とても感動した。中には、建物を建てる時に見つかった遺跡も展示されていて、ただデザインについての施設というわけではなく、韓国の国についても関わりがある建物だと感じた。お店には、韓国の方が多くいて、デザイナーの方がデザインした商品を見ている。カップに写ると絵になるカップや、ラインを引きやすいペンなど、日本では売っていない商品が売っていて面白かった。



- 結論

今回、東大門デザインプラザに行ってみて、デザインに興味のある方が韓国には多くいるのではないかと思った。子どもを連れて、おしゃれなデザインの遊具で遊んでいる人や、学生など、さまざまな年齢の方がいた。そこが、日本との違いだと思う。そのような人が多くいる韓国だからこそ、芸術が発展しているのだろう。東大門デザインプラザのお店は、定期的に入れ替わっているため、何年か後にもう一度行ってみたいと思う。

あこがれの国、韓国（中1・女子）

私が人生で初めて強いあこがれを持った国、それが韓国でした。その韓国に行き、中学1年生でホームステイすることができて、本当に良かったと思います。

私は、以前タイに住んでいたり、母の勧めで英検を取ったりと、海外や外国語に接する機会はあったのですが、正直これまで、外国に強いあこがれを持つことはありませんでした。ところが、K-POPブームがあり、元々ダンスが趣味だったこともあり興味を持つうち、韓国そのものに強く惹かれるようになりました。そんな時に見つけた交流団募集のお知らせ、迷いなく申し込むことにしました。

とはいえ、とても心配症の私は、団員の皆さんとうまくやっていけるか、とか、ホストファミリーはどんな人達だろうか、とか、楽しみなこともたくさんありつつ、不安も感じながら、出発の朝を迎えました。

しかし、空港に向かうバスの中で、一つ目の不安は消え去りました。事前の研修を通じて思っていたより更にぐんと、団員の皆さんとうまくやっていける気がしたからです。その時すでに、それまでとは違う親しい雰囲気、団員たちの中にあっただけだと思います。

そして、韓国に着き対面式を終えました。第一印象では、お互いに緊張もあり、パートナーのウンセムと仲良くなれるか不安でしたが、お父さんの車に乗る頃には少し距離が縮まり、その後、信号のところでウンセムと私だけ車から降り、アクセサリーや百貨のお店などを見て回り、まだあまりお話は出来なかったけれど、仲良くなれる予感は感じました。

そして2日目。この日は団員の仲間もいて緊張しなかったので、翻訳機などを使って色々話することが出来ました。ですがとても面白いことがあったのは家に帰ってからで、なんと、ウンセムのお姉ちゃんの彼氏と夜ご飯を一緒に食べることになったのです。娘の彼氏と初めて会うという大切な日に、私も一緒にいいのだろうかと思いましたが、皆さんなぜか気にしていない様子でした。そして、食事会は、お父さんが緊張してぶっきらぼうだったり、お母さんが沢山しゃべったり、とても面白い体験でした。

また、その日の夜、ウンセムと、もう一組のペアと4人でカラオケに行きました。韓国のカラオケに行けるなんて夢のようで、とてもうれしかったです。また、その足でスーパーにも行けて、旅行では出来ない経験が沢山出来た一日でした。

このようにして楽しく過ごしていると、あっという間にウンセムの家で寝る最後の日になってしまいました。その日は、ご飯を食べ終えてから公園に行ったのですが、初めて乗ったお母さんの運転があまり上手でなく、私にもわかるぐらい、いかにも「道を間違えているんだろうな」というタイミングで、ウンセムが翻訳機で「道を間違えた」と見せてくれて、「だろうな」とおかしくなりました。なんとか公園に着いたときに、お母さんが胸に手を当てて「フー」と言っていたのが印象的です。公園に着いたのは夜9時過ぎだったのですが、小学1年生ぐらいから大人の人まで沢山いて、日本ではなかなか見られない光景だな、と思いました。

また、この日は昼間ずっとお買い物をして過ごしたのですが、スーパーでラーメンを選ぶ時に、ウンセムが一つ一つを指さしながら日本語で「からい」、「からいじゃない」と教えてくれて、その日本語がとてもかわいかったです。

そして遂に最終日、さよならパーティの時間になりました。私は、個人の出し物で踊るダンスと、みんなで踊るTWICEの2曲を練習していました。先に踊った個人の方は、私一人でとても緊張しましたが、自然と手拍子も起こり、気持ちよく踊ることが出来ました。何より終わった後ウンセムが「Good!!」とすぐに合図してくれて、踊って良かったー！と思いました。続いてTWICEの「TT」です。この曲に関しては、発表サブリーダーとして、

立ち位置をオリジナルバージョンで考えたりしたのですが、そのあたりはぐちゃぐちゃになりながらも楽しく踊ることが出来て、完璧に踊るよりこれぐらいの方が面白くて良かったな一と思いました。このぐちゃぐちゃな感じも、狙いの一つではあったので、大成功だったと思います。

最後の夜はホテルに泊まり、そこでまた団員同士の距離が一気に縮まって仲良くなれましたが、「帰りたくない」「まだいたい」と何人かの人も言っていました。

あこがれの国で普通の生活をして、一番思ったのは、「意外と日本と変わらない」ということです。この感覚を大事に、この先もウンセムと交流していきたいと思います。



韓国のファッションについて

● テーマを選んだ理由

私が韓国にあこがれる理由は、服やメイク、音楽など沢山あるのですが、特にファッションには興味があります。そして、私は服が大好きで、将来もファッション関係の仕事に就きたいと思っています。そこで、今日本でも流行っている「オルチャンファッション」（韓国語で「かわいいファッション」）を、本場の韓国で、自分の目で見て研究したいと思い、研究テーマに選びました。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

ネットで「オルチャンファッション」と入力すると、黒いスカートや黒スパッツなど、黒系でまとめているコーデ、またジーンズや短パンなどのピタッとしたボトムスにオーバーサイズのトップスを合わせるコーデなどが出てきて、オルチャンファッションにもいくつか系統があるんだな、と思いました。

そこで、もっと本格的にオルチャンファッションを知るために、韓国の通販サイトを見てみました。すると、トップスはブカッとしたオーバーサイズのものが多く、ボトムスは短パンやスウェットなどがあって、今はトップスは大体オーバーサイズで、ボトムスもブカッとしたスウェットなどを合わせるんだな、と思いました。日本のファッション雑誌などを見るとチェック柄のスカートなどがオルチャンファッションとして取り上げられていたのですが、それは少しズレているのかもな、と思いました。

● 現地に行って分かったこと

とてもラッキーなことに、パートナーのウンセムがオシャレな子だったため、まずはウンセムの服に注目してみました。

1日目…ブカッとした黒いスラックスに紫のTシャツ。Tシャツはインせずに出していました。

2日目…ジーンズに白のTシャツ、その上から、襟付きの半そでシャツ、そして黒のキャップをかぶっていました。

3日目…黒の短パンに初日と同じ紫のTシャツで、シャツはインしていませんでした。

4日目…初日と同じ黒のスラックスに紺色のTシャツで、この日もシャツはインしていませんでした。

次に、街を歩いていて気付いたことです。

まず、ウンセムも着ていたように、黒の短パンをはいている人は何人かいました。ですが、それより一番感じたのは、とにかくジーンズ素材のボトムスを着ている人がとても多いということです。短パン、スリム系、大きめのものなど種類はバラバラでしたが、ジーンズ素材が流行っているようでした。

また、白Tシャツを着ている人も多かったです。白Tシャツはどのようなボトムスでも大抵合うと思いますが、特にジーンズ素材のボトムスに白Tシャツを合わせている人はとても多かったです。ですがボトムスに関しては、ジーンズだけでなく、ブカッとしているものは全体的に流行っていました。

● 結論

トップスは白のTシャツ、ボトムスはジーンズ素材のものかブカッとしたスウェットが流行っている。また、靴は、白の大きなスニーカーをよく目にしました。

日本で韓国の流行を調べる際には、日本のファッション雑誌やネットで調べてみるより、韓国の通販を見るのが、オルチャンファッションを知る一番の方法だと思いました。



念願の韓国（高2・女子）

この青少年交流団に選ばれて韓国に行けると聞いた時、嘘だと思いました。日本で韓国ブームがきてから、周りの子にK-POP好きが多くなったり、新大久保に通う子がいたり、そんな人達に影響されて、韓国に行ってみたいなとずっと思っていました。だから、そんな念願の国に行けることが信じられなくてとても楽しみでワクワクしていました。もちろん、楽しみだけではなく不安もありました。韓国と日本の関係が悪くなってしまったり、日本人が襲われたなどのニュースを目にすることが多くなり、大丈夫なのかなと思っていました。そんな不安と楽しみさを持ちながら韓国へ向かいました。

韓国に着いてまず初めに、日本の景色と変わらないじゃんと思いました。街並みだったり、天気だったり、日本と似てるところが多かったからです。バスの中で話したり寝てたりしていたらあつという間に向こうの区役所に着いて、ホームステイ先の家族の方々に会いました。初めは英語で話しかけてくれたけど、何を言っているのかさっぱり分からなかったです。でもジェスチャーで伝えてくれたり、ゆっくり言ってくれたので会話出来るようになり、韓国の人は優しいんだなと感じました。

最初は4日間もホームステイするのは耐えられないなと思っていましたが、家族の皆さんがとても優しく、安心して過ごすことができました。ホームステイでは、一緒にショッピングモールに行ったり、トッポギを食べたりしました。おすすめのお店とかおすすめの物を全部教えてくれました。家族全員でどこかに行くのは出来なかったけど、家でチキンを食べたり、色んな話をしたりと楽しく過ごしました。その中でも私が1番思い出に残っているのは、4日目に行った明洞です。韓国に行ったら絶対いきたいと思っていた場所なので、行けてとても嬉しかったです。まだ行けてないところや、買えてない物がたくさんあるので、また韓国に行きたいと思います。

韓国に行ってみて、言葉の大切さが分かりました。韓国語をあまり勉強しないで行ってしまったので分からないし、日本語も通じないので英語と翻訳機で会話をしていました。でも他の団員の人は韓国語で話していて、それがすごくかっこよくて、話せるようになりたいと思いました。だから今、韓国語の勉強をしています。

今回行って、私自身の視野がとても広がり、色んなところに興味を持ったり、色んなことに挑戦しようと思えるようになりました。行かないと味わえないことがたくさんありました。韓国に行かなかったら、韓国語を勉強しようとは思わなかったし、韓国について詳しく知ろうともしなかったと思います。だから行けて本当によかったです。

韓国と日本の食文化の違い

今回私は「韓国と日本の食文化の違い」をテーマに韓国へ行ってきました。このテーマにした理由は、事前学習などで韓国の食文化について学んだときに、日本と全然違うところが多く、興味を持ったのでこのテーマにしました。

韓国へ行く前に事前学習やネットなどで色々調べて分かったことがあります。1つ目は、箸とスプーンは縦に揃える。2つ目は食事中に立て膝やあぐらをしてもいい。3つ目は、1番年長者が食べ始めるまで、待つ。4つ目は、お茶碗は手に持たないで、食卓に置いたまま食べる。この4つが分かりました。特に、私は3つ目を気をつけようと思いながら韓国でご飯を食べました。ですが、ホームステイ先でのご飯では、お父さんかお母さんが食べ始める前にみんな食べ始めていたのでびっくりしました。だから、あまり気にしないのかなと思いました。

事前に調べたもの以外にも気づいたことがあります。それは、韓国人は食べる時に音を立てて食べてるなど感じました。日本でそれをやると、怒られたり、行儀が悪いと言われてしまいます。外で食べる時に、他の韓国人も音を立てて食べていました。日本でやると怒られることは韓国では当たり前のことなんだなと思いました。

他にも、食べる量が多い気がしました。朝からたくさんご飯が出て、私の家は朝ごはんは適当なので、羨ましいなと思いました。あとは、1回に口に運ぶ量が多く、頬張って食べていました。日本の人は口から食べ物が無くなったら食べるという感じだけど、韓国人はどんどん口に突っ込んで食べていました。それも違いだと思います。違いとは言えないかもしれないけど、夜食も多いなと感じました。夜ごはんを食べた後に、チキンを食べたり、外にかき氷を食べに行ったりしました。日本で買ったお菓子の土産もたくさん食べてくれました。それなのに、韓国人は細いので羨ましいし不思議です。これらが韓国に行って分かったことです。

実際に行ってご飯を食べて、日本と韓国の食文化は似てるところもあれば全く違うところもたくさんありました。ホームステイ先で、なにも分からない私に食べ方やマナーを教えてくれた様に、他の国に行った時はその国の文化も大切にしていこうと思いました。

韓国から持ち帰ってきた「何か」(中2・男子)

4回の研修を終え、ついに憧れの韓国の金浦空港に着いた時、僕はまず韓国の香りをかぎました。韓国と言ったらキムチというイメージがあるのでキムチの香りがするのではないかと考えていました。ほかの団員はどのような香りだとおもったかは分かり兼ねますが、僕は「カラシ」の香りだと思いました。そんな「カラシ」の香りが実際に行ってみた時の僕の第1印象となった韓国。僕はそんな韓国で主に3つの事を体感しました。

ホームステイをさせていただいた4日間で第1言語、すなわち母国語が異なることから1番心配だった自己紹介などを含めた会話や意思疎通。ホストファミリーのお父様が日本語を話すことができ、家の中では苦労がなかったのですが、ペアの子と出かける時はお父様がいらっしゃらないので、隣の席に座っているにも関わらず、1日目は黙っている時間がほとんどでした。家に帰って少しずつ口数が増えてきてから僕は「英語」を中心にペアの子と会話をするようになりました。日本に帰ってきて親に思い出を話している時に気が付いたのですが、日本も韓国も第2言語が「英語」なのです。

この事業に参加をしようと思ってから何を韓国で学びたいかを考えました。僕が学ぼうと思った事は「お互いに話す言葉が異なる中、どこまで意思が伝えられるか。そしてどのようなコミュニケーション力をつければよいか。」ということでした。僕が実際に韓国に行って思った事は、英語を話す事が出来る方が多いということです。自分が知らない、又は分からない英単語があり、自分の言いたい事を英語で表現できない時はスマートフォンの通訳アプリケーションで翻訳し、スマートフォンの画面を見せて自分の言いたい事を伝えました。台湾に家族で旅行に行った時も英語が通じる方は少なからずいました。英語を話す事が出来る国はアメリカは勿論、日本や韓国、少数ではありますが台湾、そして海外には英語を母国語として話す国が他にも沢山存在します。僕が韓国に行って体感した事の1つ、それは近代化が進むこの社会、ついこの間日本の学校でも授業の科目の1つとなった英語が他国の人と会話をする時の言語になり、話せなくては他国の人との「言葉の壁」が出来てしまい、意思疎通が困難になる可能性があり、自分はまだ英語で会話するには不十分な学習量である。そして、それでもその国の文化の1つでもある母国語、自分でいう日本語を学び、大切にしていける事もとても重要である、ということです。

英語でペアの子と会話ができるようになっても話題が見つからず、いつも話しかけてくれたのはペアの子でした。僕は「韓国は緑が多いね」などの簡単な言葉も発する事が出来ませんでした。ペアの子の表情は気まずい雰囲気を感じて無理やり話しをしてくれるのではなく、ただ日本からきた僕に韓国の事を一生懸命教えてくれている様子でした。その時僕は、ペアの子に申し訳ないという気持ちと共になかなか言葉を発する事が出来ない僕の敗北感、そして後悔を覚えました。家族みんなで「明洞」に行った時、僕は日本にもあるもの、ペアの子が気になっていた物を見かけた時に「Is it famous in Korea?」「これは韓国では有名ですか?」と、いちいち問いかけました。いちいち鬱陶しいと心の中で思っていたかもしれませんが、ペアの子は笑顔で答えてくれました。僕はその物を話のタネにし、初日より少しだけ長い会話をする事が出来ました。その時、僕は妙に興奮し、ペアの子と話す事が出来た事にとっても喜びました。その後も家の中では1日目よりもうんと会話と笑顔が溢れました。不安だったホームステイもいつの間にか楽しいという思いが長い時間を共に過ごすたびに別れたくない、という気持ちと共に増していきました。僕が韓国に行って体感したことの2つ目は、恥ずかしくても相手の言葉を待つのではなく、自分から思い切って話しかけてみないと仲は深まらない。そして時間は有限であり、楽しい時間はあっという間に過ぎて行ってしまうということです。このことから将来僕がホームステイを受け入れる時には自分から話しかけて行こうと思いました。時間は有限である事や、楽しい時間はあっという間に過ぎる事は

小さい頃感じた事があったと思います。自分が年を重ねて成長したのかもしれませんが、それよりも他国で、しかも4日間という短い時間で貴重な体験をさせていただいた事が特に心に染み付いた原因だと思います。

日韓の関係が悪化していく中、僕達は韓国へと旅立ちました。ホストファミリーの方々は勿論、通訳を行ってくれた方、伝統楽器を教えてくれた人、町中にあるお店の店員さんまでもが僕達日本人に日韓関係を思わせないほどとても優しく接してくれました。ホテルでホストファミリーの方々とお別れをした後、引率者の方が「江東区区役所の方々やホストファミリーの方々はとても優しくかったです、日本人の事を悪く思っている人は少なからずいますので最後まで気を抜かず無事に帰りましょう」と言いました。僕は日韓関係を忘れるほどやさしく接してもらい、確かに警戒心が緩んでいました。僕はこの時、自分はまだ子どもであると共に、引率者の方々は色々な事を経験してきた大人であり、将来この時の引率者の方のように今の自分が置かれている場所の状況を常に把握しながら行動出来るような大人にならなくてはならないと感じました。

そして日本との関係が悪化している国に行きたい、というわがままを聞いてくれた親、何事もなく元気に帰国出来るようサポートしてくれた引率者の方々、いつも優しく接してくれた同派遣団員、そして武蔵野市で韓国の事を教えてくれたり、あらゆる面でサポートしてくれたりした武蔵野市の職員の皆様に、とても感謝をしています。これからはもっともっと英語を勉強し、一言の勇気を出し、周りをよく見て行動できる大人になるという意志が僕が韓国から持ち帰ってきた「何か」です。

韓国の日常生活

● 動機

自分と近い年齢の子どもが韓国でどのような生活をしているのか知りたかったから

● 事前に調べたこと、考えていたこと

- ・一戸建てよりもビルが多い
- ・ゴミは指定の電柱に置く よって見栄えが悪い
- ・道路は車が優先である よって運転が荒い
- ・握手は両手
- ・友情の証として手を繋ぐ（同性でも）
- ・電車の中で立っている人が座っている前の人の膝に荷物を置く
- ・キムチは自分で手作りし、キムチ冷蔵庫がある
- ・食事は基本鉄のスプーンで食べる
- ・お皿を持ってはいけない
- ・入浴はせず基本シャワー
- ・最年長者が食べ始めるまで箸をつけてはならない。

箇条書きにしましたが、これはインターネットのある一つのサイトで調べました。11個あるうちの7つは研修時に教わった事と一緒にでしたが、他の4つのことは知りませんでした。また、キムチを近所の人と一緒に漬けるという話は聞いたことがありますが、キムチ冷蔵庫については友人のお母さまから聞きました。その時、ビルが多い韓国でおいの強いキムチを近所の人と一緒に漬けて、幅をとるキムチ専用の冷蔵庫があるのか少し疑問でした。なぜなら、近代化が進むこの社会、友人のお母さまが韓国にいた頃とは常識が変わりつつある可能性があるからです。

● 現地に行って分ったこと

調べた事と一致していたことは、一戸建てよりビルが多いこと、ゴミは指定の電柱に置くこと、道路は車が優先であること、握手を両手ですということ、友情の証として手を繋ぐこと、食事は基本鉄のスプーンであること、入浴はせず基本はシャワーで体をきれいにするものでした。僕が韓国に行ったといっても、ソウルという都会の中の江東区の1部を見ただけであって、韓国の田舎や他の町は分かりません。

ゴミは指定の場所に置かれていましたが、明洞では、袋が開いていて町行く人がゴミを捨てられるようになっていました。道路は確かに車が優先でしたが、運転が荒いわけではなく、赤信号の時にスマートフォンを使うなどの危ない運転でした。また、ホストファミリーの方と別れる時は確かに両手で握手をされました。街中で同性の人が手を繋ぐ様子は3組しか見ることができませんでしたが、ホストファミリーのお父様は「最近はずかしいと思っていて、手を繋がない人もいる」と言っていました。食事は確かに鉄のスプーンでしたが、同じく鉄の箸を使ってキムチをとったり、つくねをとったりしました。入浴は1度もしませんでした。垢すりに行くことがあるそうです。お皿は基本持たないのですが、少量のスープをかき集める時など、場合によってはお皿を持つことができました。電車の中で座っている人の膝に荷物を乗せている人は1度

も見ることはできませんでした。最年長者が食べ始める前に子ども達は箸をつけていました。キムチを近所の人と作るのかは分かりませんでした。キムチ冷蔵庫はありませんでした。その代わりに冷蔵庫にキムチだけが入った専用のフロアがありました。江東区を通るハンガンという河川が見えると賃貸の値段が高くなり、見えないところは値段が低くなることも聞きました。川が不動産に関わっていることにとっても驚きました。また、韓国の家庭は、各部屋に冷房があるのではなく、リビングルームに縦に長い大きなエアコンがありました。

● 結論

韓国の事を調べ、実際に見に行った結果、調べた事と少し異なる部分があることが分かった。これは、調べた時のサイトの人と、僕が行った場所が異なったからであると思う。また、この世代を生きる人は、昔の人のキムチ作りなどの文化を省略、または簡略化している事が分かった。今回は江東区しか見る事が出来なかった。他の町も見たいと思った。これからも国内でも色々な事に関心を持って見つけられたら良いと思った。



感想（中2・女子）

8月1日、私は憧れの韓国の金浦空港に降り立ちました。ずっと行きたくてたまらなかったので着いた時には興奮して団員とはしゃいでしまいました。歓迎式でペアのギュヨンという子に会った時、メイクをしていておしゃれで大人っぽくて本当にびっくりしました。さらに同い年と聞いた時は信じられませんでした。その後ホストファミリーの方々と家に行きました。ギュヨンの家は韓国では珍しい軒家でした。家に入るとギュヨンの妹と弟と犬2匹が出迎えてくれました。そこから私の4泊5日の幸せなホームステイが始まりました。

私がプログラムの中で一番楽しかったのは、8月3日に行った韓服体験と伝統的な鏡作りでした。鏡の作り方が難しくて戸惑っている時に先生が優しく教えてくれたり、団員のペアの子が私の好きな色の紙と交換してくれたりと親切にしてくれました。柄も可愛くて韓国っぽい鏡が大好きです。韓服はそれぞれの子のイメージに合わせた色や形で選んでくれてみんなとても似合っていました。韓国の昔ながらの家の前で団員やペアの子達と一緒に写真を撮ったりしました。そこにいと韓国時代劇のヒロインになった気分ワクワクしました。韓国の伝統楽器であるチャングは先生のように格好よく演奏はできなかつたけどとても楽しかったです。五つぐらいあるリズムを覚えるのが大変でした。Nソウルタワーでは韓国のきれいな景色が見られてよかったです。しかし、トイレで景色が見られるように壁が前面ガラスになっている事に驚きました。自由散策は私とギュヨンと仲良くなった団員とそのペアの子と4人で行動しました。

ホームステイ1日目、ギュヨンと二人でトッポッキを食べに行きました。とても辛かったのですがやっぱり本場は美味しいなと思いました。家に帰った後、お母さんが「外に遊びに行こう」と言い、行先も分からないまま行くと、着いたところはなんとローラースケート場でした。ホストファミリーの皆がやり方を教えてくれたので楽しかったです。でも時刻は10時。時間を忘れ楽しんでいたら帰る時にはもう12時でした。

ホームステイ2日目、夜にチーズタッカルビを食べました。辛くて泣きそうなのに箸が進んでしまうくらいおいしかったです。でも涙目になっていたのでお母さんが店員さんに辛くないお肉を頼んでくれました。本当は辛くないメニューはなかったのですが、作ってくれました。その後アイスを食べ、9時半から、ギュヨンと団員の1人と団員のペアの子と4人でカラオケに行きました。日本だと中学生だけで10時まで遊ぶのは絶対に経験しないことなので新鮮でした。韓国の子はとても歌が上手で英語の歌詞のところも全部歌っていてすごいと思いました。カラオケでは日本と違って100円で何分歌えるという仕組みになっていました。日本人向けに、日本語メニューもあり楽しむことができました。

ホームステイ3日目、ホストファミリーとロッテタワーに行って買い物をしました。ペアの子がおススメのリップを教えてくださいました。ラインストアでbt21の扇風機をお母さんが買ってくれました。ずっと欲しかったのでとても嬉しかったです。

ホームステイ4日目、朝起きてすぐ「行くよ！」と言われ、下半分パジャマ状態で家を出ました。ペアの弟にどこに行くの？と尋ねたらプールと言われ、びっくりしました。水着なんて持っていません。でもお母さんはちゃんと私用の水着を持ってきてくれました。朝ごはんはどうするのだろうと思っていましたがなんとキンパを作ってきてくれたのです。プールの中でゲームをしたり水鉄砲で遊んだりしました。言葉が通じなくても伝わったし、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

この5日間で大変だったのはやはり言葉の壁です。韓国語も日本語も通じない、英語もたどたどしい、唯一の頼みはgoogle翻訳アプリ。なので翻訳機とジェスチャー、少しの韓国語で生活していました。団員の1人が「声に出して何かを言うとだんだん通じていくし、どんどんしゃべれるようになるよ」と言っていました。なので私も

少しづつ韓国語を発すると、ペアの子も日本語を少し話してくれたのが嬉しかったです。次に行くときは韓国語も英語もしゃべれるように日々勉強していきたいです。

4泊5日間は長いようで短いこの貴重な時間を、より良いものにしてくれたのは何よりもギュヨンとホストファミリーの皆さん、そして団員の皆、市役所の方々です。皆さんには感謝してもきれません。本当にとっても楽しく、有意義な5日間でした。

韓国と日本の違いについて

● 動機

韓国は日本の隣の国であるため、文化や生活、交通など少し似ている部分がある。韓国ドラマなどでも言葉の発音や街の風景が似ているところをよく見かける。そんな中、日本と韓国にはどんな違いがあるのか、どこが違うのか、なぜ違うのかなどを知りたかったのでこの研究テーマにした。

これからは食事、伝統、学校、その他(街並みを見ていて気付いたこと)に分けて書いていく。

● 事前に調べたこと、考えていたこと

①食事について

- ・韓国は年上の方が食べ始めたら食べ始め、食べ終わったら食べ終える。
- ・辛いものが多い。
- ・キムチなどの発酵食品が多い。
- ・おかずが多く箸でみんなですべて食べる。
- ・屋台が多い。
- ・スプーンや箸は縦にそろえ、スプーンは左で箸は右でそろえる。
- ・ご飯と汁物はスプーンで、おかずは箸で食べる。
- ・ご飯はスープに入れて食べてもいい。
- ・食器は持たない。
- ・食事の前後に挨拶をする。

②伝統について

- ・男性はあぐら女性は立膝をついてもいい。
- ・伝統楽器にはカヤグム、アジェン、ヘグム、タンソ、テグム、チャングなどがある。
- ・伝統衣装 韓服 男性 パジチョゴリ 女性 チマチョゴリ

③学校

- ・韓国ドラマではメイクをしたりスマホを使ったりしているシーンがあったが実際はメイクもスマホも禁止である。
- ・部活はない。
- ・一日何時間も勉強する。
- ・恋愛も禁止の学校が多く、女子校や男子校が多い。
- ・学食がある。
- ・夜に学校に残って勉強する夜間自主学習がある。

④その他

- ・女性は人前でタバコを吸わない。
- ・路上駐車がが多い。
- ・高層ビルが多く一軒家は少ない。

- ・夜に遊びに行くことが多い。
- ・寝る時間が遅い。
- ・車は右ハンドルで右側通行である。

● 現地に行ってわかったこと

①について

日本との共通点

- ・年上の人が先に食べるという行動は最近しなくなったようだ。ホームステイ先でもそれは見られずに日本と同じであった。
- ・コチュジャンやキムチやチョングッチャン、お酒であるマッコルリなど発酵食品をよく食べる。
- ・食事の前にいただきます後にはごちそうさまでした。と言うが、ホストファミリーの皆さんは言ってる時とっていない時があった。

日本との相違点

- ・食器はお茶碗などは持つが、韓国ではすべての食器は持たないで食べる。
- ・韓国ではおかずのお皿に皆で手を付けるが、日本ではおかずは一人ずつ盛り付けられている。
- ・辛い物が多く全体的に唐辛子で赤くなった食べ物が多い。

②について

- ・伝統については共通点はほぼ無いようだ。
- ・韓服は原色を使っており色鮮やかで華やかなイメージになっている。日本は淡い色などを使っている。
- ・韓服は外側に広がっていくスカートのようにしているため立膝をついてもいいとされている。日本では正座で座ることが定着していたが、韓国では正座をするのは罪人であると考えていたため正座はしない。
- ・お琴など楽器の形が似ているものが多い。

③について(ペアのギュヨンさんに聞きました。)

日本との共通点

- ・メイクはしてはいけない。
- ・恋愛はしてもよい。
- ・8時半ごろに始まり、4時ごろに終わる。
- ・髪を染めてはいけない。

日本との相違点

- ・高校生になると夜間自主学習ができるようになる。
- ・学食がある。
- ・1日3時間勉強する。
- ・部活がない。
- ・教科が10教科ある。

④について

- ・浴槽がなく、シャワーだけという家庭が多い。
- ・ホームステイで感じたことだが、夜に遊びに行つて就寝が遅いということだ。さらに遅い時間までお店が開いているというのにも気が付いた。
- ・タバコを吸っている人をあまり見かけなかった。
- ・日本は右ハンドルで左側通行だが、韓国は右ハンドルで右側通行だった。

● 結論

韓国はお隣の国で顔も似ているため、共通している点が沢山あると思ったが、そんなになんか思わなかった。特に食文化については箸とスプーンを使うことくらいしか共通点がないんだなと感じた。町並みは日本と変わらない。

しかし日本より高層マンションが多いと感じた。日本は地震が多いところなのであまり高いビルは建てられない。つまり、韓国は地震があまりないのだと感じた。日本と韓国では夜寝るのが遅いとか部活が無いとか生活の上で相違点を感じ、興味深く思った。色々な場所に連れて行ってくれたり、ごちそうしてくれたり、写真をアルバムにしお土産にしてくれたり、家族中で歓迎してくれて、韓国の人はとても温かいと感じた。

感想（高2・女子）

今回わたしは韓国の江東区に行きました。韓国での思い出はたくさんあります。

まず、韓国に着いて区役所に行きホストファミリーに会いました。ペアの子はヨンソといます。そのときの私はまだ緊張していて、ヨンソとうまく話せませんでした。家に着いて、ご飯を食べていてもあまりうまく話せませんでした。

その日の夜、ジムで音楽に合わせてながら自転車をこぐ、スピニングというものに連れていってもらいました。これをしたおかげで少し緊張がとけました。

2日目には先史遺跡を見に行ったりミュージカルを見たりしました。

少し緊張はありましたが、1日目に比べて英語と韓国語を織り混ぜながら意思疎通ができるようになってきて色々な韓国語を教えてもらえました。

その日の夜、ヨンソには高校3年生のお姉ちゃんがいました。なので一緒にサムギョプサルを食べに行きました。

お姉ちゃんもとてもやさしく、私あまり韓国語がうまくないので、英語で話してくれたりしました。サムギョプサルを食べたあと、私は韓国でどうしてもほしいものがありそれを買いに行かせてくれました。

お姉ちゃんは全部英語で一つ一つ説明してくれました。とても助かりました。お姉ちゃんは来年受験もあるのにとっても私に親切にしてくれました。

3日目にはNソウルタワーや韓国の家という、韓服体験ができる所へ行きました。

もうみんなかなり打ち解けてきて、他のペアの韓国人の子ともお話しすることができました。みんなとてもいい人で韓服体験のときにもたくさん一緒に写真を撮ってくれたり、私をすごくほめてくれたりしました。

よく、韓国の子達と話していると、日本の歴史や文化について聞かれることがよくあったのですが、日本人なのにあまり理解できていなくて答えることができないことも多々ありました。なので、海外に留学に行くと言うのは海外を見たり、異文化に触れたりすることができるだけでなく、私の国である日本を客観的に見ることができるので、とてもいい機会でした。

4日目はホストファミリーと自由行動でミョンドンに行ってそのあとさよならパーティーでした。

ミョンドンは交流団のメンバーのペアと一緒に行きました。

韓国の子たちはみんな私たちが行きたいところに連れていってくれて、お昼ご飯の冷麺もおごってくれました。

その後はさよならパーティーでした。私たち日本のメンバーは感謝の気持ちを込めて、TWICEのTTを踊りました。他にも私は雪の華という韓国でも有名な日本の歌を韓国語で歌いました。韓国の子達はみんな上手だったよ、よかったよ、とほめてくれて頑張って練習してよかったと思います。

最終日、本当に韓国から帰りたくありませんでした。韓国から帰る飛行機の中で韓国での思い出をたくさん思い出して泣いてしまいました。そのくらい、わたしにとっては大きな学びや思い出になり、とても貴重な体験をすることができました。

最後に、この事業に携わってくれたすべての人に感謝を伝えたいです。ありがとうございました！

韓国と日本の違いについて

1、お風呂

日本は浴槽がついていて、トイレや洗面所と別れているのが一般的ですが、韓国では浴槽がなく、2つとも一緒になっていてカーテンもないので、トイレなどに水がかかってしまうのではないかとひやひやしながらお風呂に入りました。

2、車が右側通行

日本は左側通行が普通ですが、韓国は右側通行でした。やはり、わたしは左側通行で慣れているため、少し違和感がありました。

3、食事作法

日本ではご飯の茶碗を持たないと礼儀が悪いとされますが、韓国では茶碗は置いて、左手も使わなくていいそうです。

他にも作法ではないですが、日本では割り箸やプラスチックや木のお箸が主流ですが、韓国は鉄のお箸が主流です。しかも薄っぺらいので最初はつかみにくかったです。

4、徴兵制がある

日本には徴兵制はないので、縁遠く感じてしまうかもしれませんが、韓国は徴兵制が2年あるので、お兄ちゃんや同級生の友達が長い時間いないことがあるそうです。

このように、たくさんの違う点がありましたが、言語の語順や食文化や町の風景などとても似ていると感じる点もたくさんありました。

これからも韓国や他の国のことをもっと学び、グローバルな人間になっていけたらいいなと思います。

韓国研修で考えたこと（高2・男子）

私がこの事業の存在を知ったのは、締め切り間近の時であった。リビングにふと置かれていたチラシを見て私はとても興味を持ち、申込用紙をすぐに書き、武蔵野市役所へと持って行った。その後、面接を知らせる通知が送られてきた。私は、緊張しいで面接に対して苦手意識が強くあり、自信はなかった。しかも、面接当日の日私は寝坊してしまい、ギリギリになってしまった。当日の朝に練習をしようと思っていたので全く練習ができずぶっつけ本番という事になってしまった。ギリギリについたこともあり面接中は落ち着かず、模範的な回答は出来なかった。しかし、行きたいという思いをただひたすら伝えた。すると後日、団員決定の通知が届きとても嬉しかった。その後、数回の自主研修を行い韓国に行くことになった。自主研修を重ねるうちに韓国研修に対する期待と興味がどんどん大きくなっていった。しかし、それと同時に面接で落選してしまった人の分も自分が研修してこなければならないと感じ責任と不安が生まれた。そして、韓国へと飛び立った。

韓国で最初に体験したのはアートセンターである。ここでは、レゴのアートや紙でのアートそして戦隊もののショーを見ることができる。ここでは、韓国をイメージしたアートが多く飾られていてついに韓国に来たんだなと感じた。次に、区役所へと向かいホストファミリーの家族と対面式をした。私は、まず区役所の出迎えが印象に残っている。韓国国内でこれほどまで反日の意識が高まっているのにも関わらず、多くの区役所職員が横断幕を掲げ大歓迎してくれた。私はとても感動した。その後、ホストファミリーとの初顔合わせがありとても緊張していたが明るく迎え入れてくれ、とても楽しいホームステイとなった。それからの韓国での日々は順調で、楽しかった。しかし、一つ困ったことがあった。それは、トイレである。私はいつも通り用を足した後、ペーパーをトイレに流してしまった。すると、トイレが詰まってしまいトイレ内の水位がどんどん上がりあふれ出てしまった。僕は焦ってホストファミリーに“help me”と言った。すると彼はバキュームのようなものでトイレトペーパーを吸い上げ、つまりを取った。私は、ここで大きな文化の違いを痛感し日常的な部分でも細心の注意を払って生活しなければならないと感じた。また、同時に新たな発見をすることができ、外国にはまだこんなに小さなことから知らないことがあって面白いと感じた。そして、外国に対する興味がさらに深まり、またどこかに行き新しい発見を見つけていきたいと思った。

実際の街で感じた反日の意識

● このテーマを選んだ理由

最近、いろいろなテレビや新聞で日韓の関係が取り上げられている。そして、その関係の悪さは戦後最悪だと言われている。そこで、実際の韓国の街で反日に対する動きはどれほどのものなのか興味を持ったから。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

日本と韓国の関係は戦時中にさかのぼり、戦時中の日本が韓国を植民地支配していた際から始まる。その際、韓国人を奴隷として扱いその扱いが荒く今でも賠償責任を求めている。日本は韓国政府には賠償として多額の金を払っているものの奴隷にされていた個人に対する賠償は行っていないので奴隷とされていた韓国国民は怒りが絶えないのであろう。しかし、日本としては韓国への賠償は済ませていると主張し互いに一步も引かない状況になっている。両国間の間に深まる溝は深くなるばかりである。しかし、アジアの安全保障における重要な両国の関係が破綻してしまうとアジアの将来が案じられてしまうだろう。

● 現地に行ってわかったこと

現地に行くと驚くことがたくさん見られた。まず、区役所の対応である。それは、私たち武蔵野市の交流団の出迎えにたくさんの人、そして大きく「武蔵野市の皆さんようこそ江東区へ」と書かれた横断幕を掲げ大歓迎してくれたことである。私は、これほどまでも韓国国内で反日に対する意識（日本製品の不買運動、反日デモなど）が高まっているのに自分たちは今まで通り平然と日本の交流団を大歓迎する姿に胸を打たれた。また、その後のユン・ヨンチョル副江東区長の挨拶にも日韓の争いは私たちには関係ないとはっきりおっしゃっていて安心することができた。

次に、ホストファミリーの対応である。日本人留学生を受け入れてくれ、日頃の生活でも明るく接してくれた。また、お土産を山のようにくれたり夜景を見に夜連れて行ってくれたりとても優しさを感じられ嬉しかった。また、自由行動においてはホストと自分と両方の行きたい場所に行くことができとても快適で楽しいホームステイであった。

しかし、江東区を離れると地下鉄に no japan の広告が貼ってあった。やはり、反日に対する意識は上がっているのだなと感じた。しかし私が自由行動で行った繁華街の明洞ではデモなどは全くなく平和であった。なので私は韓国研修中一回もデモを見ていない。

ホストファザーが言っていたが政治のニュースを丸のみするべきではない。

これらは、関心を持たせるためわざと大きく書き放送し、インパクトを与えてくる。だから、自分の目で見て情報の取捨選択をしなければならない。もちろん、反日の意識やデモがないわけではないがいたるところで起こっているわけではない。私は自分の目で見、知ることができたから良かったものの何も知らずニュースを見て韓国に行くことをやめてしまう、韓国が嫌いになってしまうことはあまりに悲しいことである。

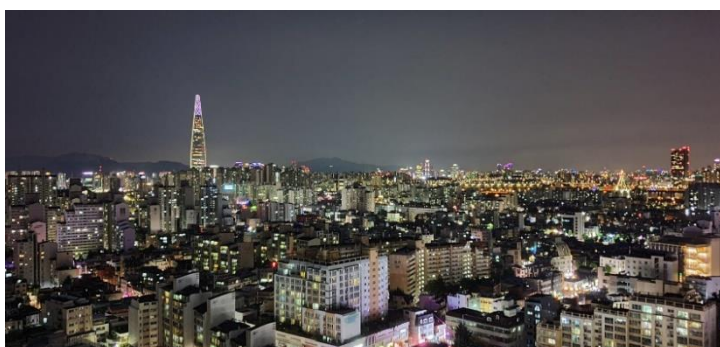
● 結論

これらのことから、私は現地でしかわからない事を経験することができたと思う。やはり、現地に行かないと分からなかったことが多くあることを思い知らされた。特に、デモの有無などは実際に行ってみなければわからなかったことであろう。知らないのではなく知ろうとすることが必要だと思った。

またこれは、日常生活でもいえることでいつも確実に正解だと思っていた目の前のことが実際の現場に行つて

みると実は不正解だということがある。

よって、目先の正解にとらわれず可能であれば自分の目で真実か否か確かめ、勘違いのないようにしていきたいと思う。そして、そのことを自分だけにとどまらず周りの人間と共有出来たらなおよいのではないかと考える。



韓国での思い出 (高1・女子)

私は今回の青少年交流団に参加して初めて韓国に行きました。参加が決まってから出発するまでの間、ホームステイ先へのお土産を選んだり、韓国語を勉強したり、行くのが本当に楽しみでした。

一方不安もありました。自分が勉強した韓国語が通じるのか、ちゃんと会話ができるかなど本当に不安でした。江東区役所に着いて初めてペアのソユンとお父さんに会いました。最初はとても緊張して頑張って挨拶しようと必死でしたが、ソユンが日本語で積極的に話してくれて徐々に緊張がなくなりこれからの4日間の生活が大きな期待へと変わっていきました。

ホームステイ先へ着くとハルモニとミンジョンオンニ、オンマが温かく迎えてくれました。

1日目の夜の夕食はハルモニが作ってくれました。たくさんの料理があっぴょくりしました。また、韓国で有名なチヂミやチャプチュエなど初めて食べる料理があっぴょんに新鮮でした。ご飯を食べた後、K-POPなどの話を3人でして盛り上がりました。何時間か前までは緊張と不安でいっぱいだったのにそれがなかったと思えるぐらい本当に楽しい時間でした。

2日目は伝統楽器体験と伝統ミュージカルを鑑賞しました。伝統楽器体験では、韓国の伝統的な楽器チャングを体験しました。最初とても難しく大変でしたが、最後の方は楽しく演ずることができました。次に鑑賞したミュージカルは韓国語で内容がわからないかなと思っていましたがわからなくてもとても楽しむことができました。

3日目はNソウルタワーと韓服体験をしました。Nソウルタワーは韓国の街を一望できとてもきれいでした。そして私が一番楽しみだった韓服体験では、チマチョゴリを着ました。思っていたより重くてとても大変でしたが、本当に楽しかったです。

3日目の夜は家でサムギョブサルを食べました。本場の味はとても美味しかったです。

4日目に夢だったロッテワールドに行くことができました。他のペアの子と4人で行ったのですがたくさん話すことができとてもよい思い出になりました。

最終日のさよならパーティーでは武蔵野市から御礼として全員でダンスをしました。みんなで盛り上がることができよかったし、皆に喜んでもらえて嬉しかったです。

4日間お世話になったホストファミリーや友達と別れるのは本当に悲しかったけど、またいつかどこかで会えると信じています。

私にとってこの青少年交流団はとてもよい経験になりました。お互い言葉が違っても思いやりの気持ちがあれば思いを伝えることができるということを改めて感じた4日間でした。

ソユン、ホストファミリーと江東区のみなさん、この派遣事業に携わってくださった皆さん、本当にありがとうございました。

韓国と日本の料理、食事マナーの違い

● このテーマを選んだ理由

韓国と日本との距離は近いが、食事や文化など違うことが多いのでどのような点が共通し、異なるのか気になったから。

● 行く前に調べたこと、考えていたこと

<食事>

- ・日本ではキムチは買うのが一般的だが韓国では手作りが一般的。また、キムチ専用の冷蔵庫がある。
- ・韓国は一品料理を頼むと前菜がたくさん出てくる。
- ・韓国は野菜を使った料理、辛い料理が多い。

<食事マナー>

- ・日本ではスープとごはんを混ぜて食べることはあまり良いマナーではないと言われているが、韓国では混ぜて食べる人が多くいる。
- ・お碗は手に持たず食卓に置く。
- ・日本ではご飯や汁物は箸で食べる人が多いが、韓国ではご飯と汁物はスプーン、おかずは箸。
- ・箸とスプーンは縦に揃えて置くこと。

● 現地に行ってわかったこと

実際に韓国で料理を食べてみて、とても辛い料理がたくさんあった。また、家でもお店でもおかずに対して野菜の量がとても多かった。お店でご飯を食べた時もキムチ、たくあんは自由におかわりができた。食事のマナーではお碗は手に持たずに置いて食べるということは本当で、直接聞いてみると、重くて熱を通しやすいステンレス製を使っているため、熱くて持てないと言っていた。

また、スプーン、箸もご飯、スープによって使いわけていた。朝でも食卓の前には、たくさんの料理が並んでいた。

現地に行って一番びっくりしたことがホームステイ先の朝食で出たサンドウィッチ。その中には、ハム、スクランブルエッグ、レタス、イチゴジャムが入っていた。なぜイチゴジャムが入っているのか聞いてみると、多くの方はそういう風に食べると言っていた。最初は驚いて、抵抗があったが食べてみると、とてもおいしかった。新しい発見が出来た4日間だった。

● 結論

韓国と日本の料理の食事のマナーは似ている部分も違う部分もありどちらにも良い点がたくさんあった。韓国料理はたくさん調べていくうちに、とても魅力的に感じた。また、改めて食事のマナーの大切さを知った。これからは他の国の料理や食事マナーについて知りたいと思う。



日韓の未来を築くホームステイ（高2・女子）

私のペア、ユリは中2で私と歳が離れており、話が合うのか不安に思っていたのですが、初対面の時、笑顔で話しかけてくれてとても安心しました。しかも好きなアイドルグループと一緒に、一気に親近感がわきました。ユリのお兄さんは私と同じ年齢なのにとっても英語が上手で、たくさん会話ができました。お母さんは私に会った瞬間私の名前を連呼してハグしてくれました。明るくて面白いお母さんで、お腹空いてないかいつも心配してくれて、食べ物をたくさん出してくれました。お父さんは夜勤の警察官であり会えず、ちょっと強面なので近づき難い感じがしましたが、土曜日の予定が終わって帰宅すると、お母さんを待っている間ゲームをしようと言って、4人で韓国色んなゲームをしてたくさん笑いました。

1日目、ユリ一家と対面した後、一緒に市場に行き、夕食にキンパ、オデン、トッポギ、スンドゥブ、ヤンニョムチキンを食べました。その後、ソウル市内で一番大きいロッテモールに行ってショッピングしました。興奮してコスメや雑貨を買おうとしたら全部お母さんがカードで払ってしまいました。「私が払います」と言ったら、「これからいっぱい買うのだからその時にお金を使いなさい。」と言ってくれました。私は受け入れてもらう側なのに、最初からこんなに良くしていただいて戸惑いました。もし私がホームステイを受け入れる側だった時このようにもてなすことができるのか真剣に考えてしまいました。この日の夜は、私とユリの好きなセブチの動画を見て大騒ぎしながら寝ました。

2日目は岩寺洞先史遺跡を見に行きました。ガイドさんが熱く語りすぎて通訳が追いつかなかった時に、隣でユリが英語で訳したり、翻訳アプリを使って一生懸命に伝えてくれて優しい子だなと感心しました。お昼は仁寺洞に行ったのですが、周りには知っている人がいないと言っていたユリがいつのまにかほかの団員のペアのソユンと仲良くなっていて4人で周ることにしました。4人だと倍盛り上がり、ペアの話も聞けて楽しかったです。その後伝統ミュージカルを見た時、隣でユリが寝てしまいました。昨日から私のために頑張って疲れたのだと思い、その姿が可愛らしかったです。夜は明洞に連れて行ってもらいました。外は真っ暗でしたが、明洞の活気は昼のようで新鮮でした。お店が閉まる曲が聞こえるまで明洞を楽しみました。

3日目はNソウルタワーに行ったり、楽しみにしていた韓服を着たり、伝統文化を体験しました。この日のお昼は他のペアの子たちとも話すことができ楽しかったです。韓服を着た時、私は勿論みんなテンションが上がって何枚も写真を撮りました。この日の夜はユリが塾だったので、代わりにお兄さんとお母さんと一緒に私の行きたかった北村韓屋村に行きました。お兄さんは理系で私と同じく医者を目指しており、歴史が大好きで詳しく解説してくれました。坂が多くて沢山汗をかけた後に3人でピンス（かき氷）を食べて生き返りました。そのお店はお父さんとお母さんが若い頃に行ったことがあるそうで、写真を見せてくれながら二人の思い出を幸せそうに語っているのを聞いて本当にいい家族だなと思いました。そんな家族のもとでホームステイができて私も幸せでした。

4日目はユリ、ほかのペアと一緒にロッテワールドで遊びました。日曜日で家族連れが多くとても混み合っていました。ユリは何度か来たことがあるので案内してくれましたが、勧めてくるのが絶叫系で死にかけました。でもお互いに写真を撮り合い、美味しいものを食べて満喫しました。夕方からのさよならパーティーは、1日目の対面式とは打って変わってみんなが打ち解けて仲良くなっていました。最初はわいわい楽しくしゃべっていたのですが、いざお別れの時になると涙が止まりませんでした。ユリと何回も写真を撮って抱き合って、お別れました。途中でお母さんから電話が来た時、4日間の思い出が蘇り心からソウルを離れたくないと思いました。ホームステイで韓国人の温かさを感じたし、いつか恩返しをしたいです。

5日目は江東区の子供たちの勉強をサポートするための自主主導学習センターに行きました。日本ではできないようなVR体験やプラスチックを溶かして物を作る体験があり、韓国では教育に力を入れていると感じました。この後空港に向かいましたが、韓国から離れたくないし、またユリと会いたくなりました。

帰国後、韓国に行った余韻が長く続きましたが、日韓関係が日に日に悪くなっていてとても心配です。この研修に参加して、いままでにない感動と経験を得ることができたと思います。このような機会を与えてくださった武蔵野市の皆さん、江東区の皆さん、市役所の皆さんに心から感謝しています。そしてこの研修のような地道な交流が日韓関係の明るい未来を創っていくと信じています。

韓国と日本の大学受験の違い

● このテーマを選んだ理由

私が現在高校2年生で、大学受験まであと1年半。夢に向かって勉強中ですが、日本の大学受験制度は、私たちの年代から新しいシステムに変わります。

韓国の大学受験については、そのシーズンになるとよくマスメディアにとりあげられて、大学の門の前で一心不乱に祈っている親の姿が写されますが、一般の受験生側から見た受験制度について、それに向けての勉強について実際に同世代の学生に会ってインタビューしてみたいと思いました。

● 行く前に調べたこと、考えたこと

日本で言う共通一次試験は、韓国では韓国教育課程評価院が行っている『修納』、『大修納』と呼ばれている。試験は毎年11月の木曜日に設定されている。この日1日ですべての試験が行われ、追試や再試はなく、この結果次第で、どの大学に行くかが決まり、その後の人生のすべてが決まるそうです。大学の進学率は日本が51%なのに対して韓国は80%を超えています。韓国の受験生にとっての究極のゴールが『SKY』と呼ばれるソウル大学、高麗大学、延世大学。幼いころから塾通いで、勉強漬けの毎日で、受験前は過酷な日々だそうです。一般的な韓国の中高生は毎日8時間目までである授業をこなし、夜の給食を食べた後、22時ぐらいまでである「夜間自律学習」と呼ばれる補講を受け、その後学習塾に行って2時ごろまで勉強するらしいです。当然、韓国の高校生がかかえるストレスはすさまじいものがあり、受験の失敗による自殺は大きな社会問題にもなっています。問題になってはいるけれど、受験制度が変わることはなさそうです。また、日本とは違い、小、中、高の受験はありません。

● 現地に行って分かったこと

私のペアのユリは中二でしたがもう塾に通っていて週2、3のペースで通っているようです。お兄さんのウンソンは私と同じ高2でほとんど毎日のように塾に通っているようです。ちょうどホームステイした期間が夏休みだったので夏休みの様子しかわかりませんでした。私が7時ぐらいに起きた時にはもうウンソンは家を出て勉強しに出かけていました。夜帰ってくるのは夜10時ぐらいで夏休みでも一日中勉強していました。ウンソンは医者を目指しているので人よりもっと勉強しなければならないのだとお母さんが言っていました。高校生になると本格的に受験を見据えて勉強を始めるらしく、家族も受験生を一生懸命サポートしてあげなければいけないとも言っていました。ユリの部屋に比べてウンソンの部屋には教科書の量がとてもたくさんありました。教科書を見せてもらったところ、やっていることは私と同じ内容に感じましたが何回も解いた痕跡があつて偉いなあと感心しました。日本もですが、韓国ではどれだけレベルの高い大学に入れるかで一生が左右されるのでみんな必死に勉強しなければなりません。私はテレビで韓国の受験は日本と違って一度だけと聞きましたが、実際は浪人することもできるそうです。

● 結論

韓国では人生がかかっている試験のために高校生になったら朝から晩まで勉強しなければいけません。そのため受験生のストレスは、とてつもないものですが、この試験を乗り越えないと大学はおろか就職すらできません。日本では高3が受験生という感じですが韓国ではもう高校生になったら受験生という見方をします。韓国

では良い大学に入ったら良い職場に行けるという認識が非常に強いので、皆良い大学に入るために必死に勉強しています。その分滑り止めの大学もあり、浪人生もたくさんいて、受験書や予備校、ネット予備校のシステムが発達しています。受験の日は受験生のために、会社の出勤時間を1時間遅めたり早めたりして交通の混雑を緩和します。また遅刻しそうな生徒がいたら、すかさずパトカーや白バイが動員され、その生徒を向かうべき所定の学校に運んでくれます。韓国では国も受験をサポートするのです。

アンケート集計結果

団員へのアンケート

1. 江東区への青少年交流団に参加してどう感じましたか。

大変良かった	12
良かった	0
あまり良くなかった	0
良くなかった	0

- ・ 普段他国の同世代の人と異文化交流がないので、とても貴重な体験になった。
- ・ 旅行では体験できないホームステイがあって、韓国に友達ができ、行ってみたい所などに行けたので、本当に楽しかったです。
- ・ 韓国の文化や人、人情を体験し、人と接する上での反省点を自分で発見することができ、年が離れた団員やペアの子と仲良くなれたから。
- ・ ただ韓国に行くだけではなく、実際の韓国での暮らしを体験できて、自分にとってとても良い経験になったと感じたから。
- ・ ホームステイ先の子と仲良くなれたから！
- ・ 国籍が違って人間関係は波長の合う・合わないが大きいのだなということを感じました。何より楽しくない瞬間が一瞬もなく、疲れていることを忘れるぐらいずっと笑顔でした。
- ・ 観光旅行ではできない人と人との交流ができたから。
また、韓国の様々な場所を巡ったり色々な体験ができたりしてとても楽しかったから。
- ・ ホームステイを始め異文化における体験を身近に感じることができ、ただ感じるだけでなく、自分の将来に生かせる体験をすることができたから。
- ・ 韓国でホームステイをして、ホストファミリーに本当に良くしてもらって韓国人の温かさを知ることができ、日中は韓国の伝統や文化を体験しとても充実した5日間になったから。
- ・ 韓国の一般的な生活を体験でき、普通の旅行ではできないことが多くあったから。
- ・ 交流が本来の目的であり、それが達成できたと自身で感じるから。
- ・ 参加していなかったら会えないような人達と仲良くなれてとても良かった。韓国に初めて行って視野が広がった気がする。

2. 事前研修について

(1) 役に立った研修内容を教えてください。

■韓国語、韓国文化

- ☞ 韓国に着いて、たくさん韓国語の看板を見ましたが、読み書きの研修のおかげでわかることがたくさんあってとても役に立ちました。
- ☞ 韓国の文化や生活を知ることによって日本との違いを見つけ実際に行った時に失礼にならないように考えることができたからです。
また、少しの会話をすることで、韓国語が好きになったからです。
- ☞ 韓国語に触れることは少なかったが、この研修から韓国語への意欲が高まったように感じたから。
- ☞ 使った言葉が多くあったから
- ☞ 習ったことを全てしっかりと伝えられたわけではなかったけど、基本的な文法やちょっとした簡単な単語でも知っているか知っていないかだと差があったと思います。
- ☞ 韓国事情で、トイレットペーパーは使った後ゴミ箱に捨てるということを教えてもらって実際そのことはすごく韓国で役に立ちました。
- ☞ ハングルの基本を教わり少し読むことができた。韓国事情は、トイレの使い方など実際に暮らす上で常識だが日本ではわからないことを具体的に知ることができた。
- ☞ 私のホストファミリーはまったく日本語がしゃべれなかったし英語は少ししゃべれるけど結構韓国語で話しかけられ、話す機会が多かったから。
- ☞ 韓国語講座。こういう機会がないとやっていなかったから。

■韓国マナー

- ☞ ご飯を食べる時など失礼をすることがなくなったから。

■ダンスの練習時間

- ☞ 私がダンスリーダーだったから、練習時間が多い回は嬉しかった。

(2) 回数は

適当である	9
多すぎる	0
少なすぎる	3

- ・ 韓国のマナー、語学、生活など様々なことを研修でき、ちょうどいい回数でよかった。
- ・ 韓国のこともよく知る事ができたし、団員通しが仲良くなる事ができた。しかし出し物の時間の準備が少々間に合わなかったので、もう少し時間があればよかった。
- ・ 韓国について充分知ることができたし、旅の注意事項も充分理解できる時間だったから。出し物に関してはあと1回分の時間は欲しかった。
- ・ ちょうど出し物であるダンスも仕上がったので、適当であると思う。
- ・ 今回はさよならパーティーの発表をダンスにしたため、その練習を考えると少なかったですが、自分の予定からすると多すぎたので、結論的には適当だったかと思いました。
- ・ 4回で韓国のことや韓国語も知ることができたので、適当だったと思う。
- ・ 少なすぎはしないが少し物足りないという印象だった。欠席などあると出し物の合わせができなくなり、バタバタしてしまう。完璧を求めるのであれば増やすべきと感じる。出し物以外の観点においては適切だと思う。
- ・ 挨拶程度は習ったが、会話ができるくらい習っていたらもっとペアの子と喋れたと思うから。
- ・ 何回か会うことで、友達とも仲良くなれたから。
- ・ ダンスをもっと本格的にして見せたかった。

3. 旅行期間、時期について

(1) 旅行期間（5日間）は

適当である	7
長すぎる	0
短すぎる	5

(2) 旅行時期（夏休み前半）は

適当である	12
不适当である	0

- ・夏休みの前半で、参加しやすかった。 ・ちょうどよかった。
- ・ホストファミリーの方々と仲良くなるにも時間がかかるし、韓国語も慣れたいので、1週間ぐらいが良いと思います。時期は良いと思いました。
- ・せっかく仲が良くなり始めたのにすぐお別れになってしまうから。
- ・夏休みに入り、落ち着いてきた期間であるため、適当であると思う。また5日間は短かったように感じたが、充実した時間を過ごせたように思うから。
- ・期間は長すぎず、短すぎずちょうど良かったです。時期は7月中だと部活で参加できず、8月後半は何かと忙しいので、この時期がぴったりです。
- ・5日間は韓国に行く前は長いかなと思っていたが、実際行ってみたらちょうどよかった。まだ宿題に追われることがない時期だったので、思いっきり楽しむことができました。
- ・旅行時期は、夏休みが一旦落ち着いていたので適当であると感じた。期間においてはホームステイ以外の子と組める時間が少なかったと感じた。
- ・思っていたよりホストファミリーといられる時間が少なく感じたし、5日間で本当にあつという間に過ぎてしまったから。旅行時期はお盆にもかぶっていないで、ちょうど良いと思った。
- ・5日間以上のホームステイだと疲れてしまう。ちょうどよく楽しいところで帰って来られた。
- ・せっかく一緒にいてリラックスでき、韓国語も上達してきたのに、いいタイミングで帰ることになったから。もっと韓国にいて、もっと交流したかった。

4. 旅行先でのプログラム、訪問先について（ホームステイ以外）

(1) 楽しかったプログラム、訪問先を第1位から3位まで記入してください。

第1位	第2位	第3位
韓服 5名	仁寺洞 3名	南山（Nソウルタワー） 4名
ホームステイ先 （その周辺） 2名	伝統ミュージカル 3名	仁寺洞 2名
仁寺洞 1名	南山（Nソウルタワー） 3名	韓服 1名
南山（Nソウルタワー） 1名	韓服 1名	伝統ミュージカル 1名
さよならパーティー 1名	明洞 1名	ホームステイ先 （その周辺） 1名
その他 2名	その他 1名	さよならパーティー 2名
		その他 1名

<p>■韓服(チマチョゴリ)体験</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ どれも初めての体験で楽しかった。韓服体験は前から体験してみたいことの1つだったので。 ☞ 韓国に行ったら、絶対に韓服を着たいと思っていたので、着られてよかったです。私とペアと他の団員のペアと4人でいろいろなところを見られて楽しかったです。 ☞ 韓服が着られた！ ☞ 韓服体験は行くまではあまり楽しみにしていなかったのですが、実際に着ると可愛くてしかも自撮り時間もあって、パートナーとも友達ともたくさん写真を撮れました。 ☞ 韓国に行く前から韓服に憧れて着てみたかったので、とても嬉しかった。伝統ミュージカルもやはり好きな韓服をたくさん見られたから。仁寺洞の自由行動では韓国の子と仲が深まったから。 ☞ ずっと着てみたかったから。 <p>■仁寺洞</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 伝統的なものを見ることができたから。 ☞ 韓国人になった気分だった。 ☞ 二日目でもまだ緊張していたため、ホストファミリーと仲良く出来るきっかけとなった。 	<p>■さよならパーティー</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ ご飯を食べている時間にたくさん韓国人の子とお話しできて、楽しかった。自由行動では一度行ってみたかった明洞に行くことができて楽しかった。 <p>■Nソウルタワー</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 景色が良かった。 ☞ 自由行動はホストファミリーとのきずなが深くなったととても感じた。Nソウルタワーは風景でどこに何があるかなどのお話で盛り上がりとても楽しかった。楽器体験は、先生が面白く、その後のミュージカルにも通ずるところがあり、楽しかった。 ☞ 韓国の町全体を見ることが出来た。 ☞ 他の韓国の子とたくさん話せたから。 <p>■明洞</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ 韓国の都会を感じた。日本人観光客の日本語に親近感を覚えた。 <p>■ミュージカル</p> <ul style="list-style-type: none"> ☞ とても迫力があって素敵だったから。
--	---

5. ホームステイについて

(1) ホストファミリーとは意思を伝え合うことができましたか。

まったく問題なかった	5
わからないこともあったが、概ね意思を通じ合えた	7
どうしたらよいかわからず困ることが多かった	0

■ どのように意思を伝えましたか

- ☞ 韓国語、言葉 ☞ 会話、ジェスチャー、ボディランゲージ ☞ 手振り ☞ 日本語
 ☞ 翻訳アプリ ☞ グーグル翻訳、英語、日本語
 ☞ 英語、韓国語での会話、通訳機の使用 ☞ 英語と韓国語を混ぜて話す

(2) ホームステイ中、どこに行きましたか。また一緒に何をして過ごしましたか。

☞ 行った場所

家の近くの商店街、ロッテモール、ロッテワールド、駅地下のお店がたくさん集まる場所、トッポギ屋さん、文房具屋さん、コスメショップ、タピオカ屋さん、ロッテタワー、プール、ホストファミリーが経営するお店、明洞、ロッテタワー、家周辺の街、映画やカラオケ、COEX、市場、ホンデ、東大門、ジム、カフェ

☞ 過ごし方

- ・一緒にTVを見たり、韓国風のメイクを教してもらったり、たくさん話しました。
- ・カラオケ、ローラースケート、ボードゲーム ・音楽を聴いたりテレビを見たりした。
- ・テレビを見たり、日本のことを紹介したり、夜景を見て心を落ち着かせたり、次の日に行きたいところの提案や予定の確認をしたりなどして過ごした。
- ・焼肉屋さんに行って、夜ご飯を食べたことが1回ありました。その時はパートナーの子のお姉さんの彼氏と会いました。その日は9時頃にレストランを出て友達とそのパートナーと4人でカラオケに行きました。次の日にはまた同じ4人でロッテワールドモールに行きました。夜ご飯を食べてから公園に行ったりもしました。最後の日はずっとお買い物をしました。メイク道具や韓国の百貨などにも行きました。
- ・1日目の夜にお散歩をして、パップシンスを買って帰って家で食べた。2日目の夜ペアとペアの韓国人友達とそのペアとトッポギを食べに行った。4日目には日本人3人、韓国人3人で明洞に行った。ホームステイファミリーとは一日目の夜ぐらいにお話した。また3日目の夜にトッポギの作り方を教してもらった。
- ・夕食やショッピングモールに行きました。自由行動ではサイクリングに行き、一緒に自転車をこぎながら川沿いを走りました。その後の明洞では一緒に買い物をしました。
- ・1日目は近所の市場に行き、家に帰った後はペアの子と私が好きなアイドルの動画やテレビを見た。2日目は明洞に行きショッピングをした。3日目は北村韓屋村という昔の風情を感じられる街に行った。もう夜暗いし公開時間は過ぎていたので音を立てないで歩いた。4日目は、もう1つのペアと4人でロッテワールドに行って色々な乗り物に乗った。
- ・コスメショップに行ったり、ジムでスピーニングという自転車のような乗り物に乗ってトレーニングしたり、サムギョブサルを食べた。お姉さんも高3で受験の年だったが、最後の日に行ったカラオケで一緒に楽しめた。

(3) 特に楽しかったこと、困ったこと・失敗したことを記入してください。

■ 楽しかったこと

- ・ ロッテワールド
- ・ 韓国の方とたくさん話すことができたこと
- ・ 9時頃からカラオケに行って夜に遊べたこと
- ・ 自由行動でのサイクリング
- ・ 全て楽しかったが「ロッテワールドで遊んだ」のが一番楽しかった。
- ・ ホストファミリーと大学のことなどたくさん話せたこと。
- ・ ペアの子やそれ以外の韓国の方とお話したこと。
- ・ お互いの母国語を教え合ったこと
- ・ 2人でカラオケに行ったこと
- ・ 話が通じたこと

■ 困ったこと・失敗したこと

- ・ もう少し韓国語を勉強していき、お話しできればよかったです。 ・ 特にない。
- ・ 自分からあまり話をふらなかつたこと。仁寺洞でしか買えない伝統物を買わなかつたこと。
- ・ もっと韓国語が話せたらと思うことが多々あつた。

(4) 韓国の一般家庭に泊まってみて感じたことを記入してください。

- ・ 家がとても広くアットホームで居心地がよかつた。また家庭料理も全て美味しかつた。
- ・ お風呂が日本と違って、シャワーだけだつたことに驚いた。夜遅くまで遊び、寝るのが遅かつた。
- ・ 自分の家族よりも家族全体の仲が良く、周りをよく見て優しく接してくれた。また自然を大事にしていた。
- ・ 初めて海外の暮らしを体験しましたが、自分もホームステイ先の家族の一員の様に接してくれてとても嬉しかつた。
- ・ お母さん、お父さんがすごく優しくかつた！家族がとても仲が良かつた。
- ・ ご飯を一番上の人が来るまで食べないということなどなく、日本とあまり変わらないように思いました。
- ・ 事前研修でも聞いていたが、トイレやお風呂の使い方が日本とは違ってびっくりした。
- ・ 家は大抵高層マンションでとても広いこと。風呂はシャワーのみであること。良い意味で気を使わずのびのび生活できました。
- ・ 想像してなかつたぐらいに優しくしてくれたり、心配してくれたり、韓国の人たちはすごく温かいなと感じました。たくさん話しかけてくれ本当に有難かつた。
- ・ とてもやさしかつた。日本との違いが多かつた。
- ・ 日本の暮らしとの違いを肌で感じる事ができた。普通の旅行であればこんなに韓国を知ることは出来なかつたと思う。
- ・ 言葉も文化もいまいち分かつていないのに一人で泊まるのは怖かつた。

(5) ホームステイはあなたにとって良い経験になりましたか。

はい	12
いいえ	0
わからない	0

- ・初めての海外が韓国ホームステイでとても緊張したが、とても楽しかった。
- ・外国の家のことは、ドラマなどでしか見られなくて、実際の暮らしを見られるのは貴重なことだし、ホストファミリーの方が親切でいろいろなところに連れて行ってくれたので、嬉しかった。
- ・互いを知りあうことで仲を深めることができ「話す」などの何かの行動を起こさないと何も得られないということを実感できたから。
- ・もう一つ家族のような存在ができて、またすぐにでも会いたくなるくらい仲が良い海外の友達ができたから。
- ・たくさんコミュニケーションがとれて、理解を深められたから。
- ・まず言葉が伝わらない中でパートナーの子やその家族とコミュニケーションを取って過ごすことはこれから色々な場面でも使えることだと思いました。また、想像とは違う韓国を体験できて新しい発見が色々ありました。
- ・観光旅行などで韓国に行っても、あまり現地の人とお話することはあまり出来ないと思うけど、今回ホームステイファミリーの方とお話できて、とても楽しかったから。
- ・日本では当たり前のことが韓国では当たり前ではないので、その土地の文化を知ることにより、自分の知識と経験が今後に活かされると感じたので良いなと思いました。
- ・前にもカナダでホームステイしたことがあったが、2名1組だったので日本人同士でしゃべってしまい後悔したので、今回1人ステイでたくさん家族と会話し、仲を深めることができ色々なことを知ることができたし、すごく考えさせられたから。
- ・普通の旅ではできないし、このプログラムに参加したからこそ知ることも多かったから。
- ・韓国の友達ができ、今後やりたいことが見つかった。私はお姉さんが欲しかったのですが、一人っ子だったので、韓国にお姉さんができて嬉しかった。
- ・言葉が分からない状況で頑張って伝えようとする力がついたから。

(6) 今後、ホストファミリーとはどのように交流を継続していきたいと思えますか。

- ・帰国後も連絡をしており、これからもたくさん交流をしていきたいと思う。
- ・ラインなどで会話をして、できれば私がまた韓国に行って会ったり、日本に来てもらい家に泊めたい。
- ・今後少し韓国語を勉強してから自分の心身共に成長した姿を見せに、1回は行きたいと思えます。ラインで繋がることのできたので、1週間に1回ぐらいは連絡したいと思えます。
- ・していきたいと思う。ホストファミリーの方々とも連絡を取り続けることを約束したので、また交流したい。
- ・連絡を取り合ってお互いに旅行をして、仲を深めていきたい。
- ・パートナーの子とはラインを繋ぐことのできたので、これからも何かあったら連絡をとりたいと思えます。もし来年来る子を選べるなら、パートナーの子だと嬉しいです。
- ・メールやカカオトークなどでホストファミリーやペアの子とつながっているので、時々連絡をとっていきたい。
- ・ホストファミリーには本当に良くして頂いたので、恩返ししたいし、日本に来たい時には全力でサポートして案内してあげたい。今はメールでやり取りしている。
- ・連絡を取り合いたい。団の近い関係などいつまでも仲良くしたい。
- ・たまに連絡をとって相手が日本に来られたらおもてなししたいし、私がたまに韓国に行くことができるならば、また会って今よりもっと仲良くなりたい。
- ・インスタがつながっているので、そこで少しでもやり取りしていきたい。

6. 韓国でどのくらいおこづかいを使いましたか。また何に使いましたか。

使った金額 (平均)	17,350 円
両替した金額 (平均)	24,167 円

■主な用途

お土産、交通費、化粧品、友達へのお土産

コチュジャン、ジュース、水、キムチ、アイス、パック服、雑誌、韓国海苔、スマホケース、区役所までの交通費、日々の食材、飲み物など

7. 出発前と帰国後で韓国に対するイメージはどのように変化しましたか。

- ・出発前は、日韓の問題がニュースでたくさん取り上げられていて、今の韓国の人たちは日本のことが嫌いな人が多いと思っていましたが、行ってみたら、とても優しい方たちがたくさんいて安心しました。帰国してからとてもイメージが変わりました。しかし現地に行って優しい人だけがたくさんいるとは限らないので、とてもいい経験になりました。
- ・私たちが行った時は日韓関係が悪くて、韓国の方に嫌がられるかと思いましたが、温かく歓迎してくださいましたし、意地悪を言われたりすることも無かったので、安心しました。近い国なので、日本と同じ街並なのかなと思いましたが、日本より車線が多いなと思いました。
- ・韓国人は内気なイメージで恥ずかしがってあまり自分から話したりしないと思っていましたが、歓迎式の席に座る時も手を振って招いてくれたり、バスの中でもスマホや英語を使って話しかけてくれ、家族、店員さん、街の人もとても優しくかったです。
- ・出発前と帰国後ではそれほどイメージは変わりませんでした。日本と韓国の街並は日本と比べて高い建物が多く、食べ物では香辛料の違いがありましたが、それ以外の大きな違いは無かったように思います。
- ・特にありません。思っていた通り、良い国でした。
- ・出発前は韓国と日本の関係が悪く、韓国は危険だとか日本人への態度がどうだとか聞いていて、でも結局同じ年の子どもみんな韓国好きだし、普通の人は韓国人も大丈夫なんじゃないかと思っていたのですが、全く問題なく（私の行ったところでは）反日のポスターもないし、みんな普通に接してくれた。
- ・行く前は色々あって怖かったけど、優しい人達ばかりだった。
- ・出国前韓国に対し、少し怖いイメージをもっていたが、実際韓国に行くとなんか韓国人たちは日本人よりも優しいんじゃないかと思うくらいとても優しく、そしてとてもフレンドリーだったこと。
- ・出発前はテレビのニュースなどの情報により反日の意識が強まっているなど感じ、恐怖があった。しかし実際に行ってみると反日の運動は一部の国民のみで、多くの方は反日を主張しているわけではない。しかし地下鉄には反日のステッカーが貼ってあり、少なくとも反日の運動はあるのだと感じた。
- ・ホストファミリーがもし日本に対して嫌な感情があったらどうしようかと政治、外交の面であまり仲が良いと言えない状況で不安でしたが、驚くほど優しくしてくれたり、気遣ってくれたり韓国には日本人に対してもここからもてなしてくれる人がたくさんいるのだなと気づきました。
- ・日本人だからと何かされることはなかった。逆に話しかけてくれる人もいた。日本に対し嫌な感情を持っている人もいると思うけど、私は出会わなかった。
- ・もともと描いていたイメージがとても明るく楽しかったので、何も変わらない。でも予想を上回るほどとても韓国は楽しかったし、韓国の方はとても親切だった。

8. 今後、江東区への青少年交流団の経験をどのように生かしていきたいですか。

- ・今回の事業団での交流で他国の人との交流に少し自信がついたので、来年のオリンピックでのボランティアや引き続き武蔵野ジャンボリーなど積極的に活動したいと思いました。
- ・外国に行って初めて自分が想像していたこととは少し違ったので、行ってみるのが大事だと思いました。自分一人だけで行ったらいろいろと苦労があったと思うが、団員がいてくれたことにより、楽しく4泊5日を過ごせたと思うので、色々な人と協力することは大事だと思う。
- ・家族5人全員が英語を使うことができていた。韓国でも日本でも母国語以外に話せる言葉が英語だったことから英語が将来重要になることを実感し、日々の生活に生かしたいと思った。またコミュニケーションを交わさないと、互いにぎくしゃくしてしまうので自分からどんどん話して仲よくできる人になれるようにしたい。
- ・前より日本以外の視野が広がったと思うので、これからの生活や将来にも生かしたい。
- ・初めて海外へ行き、ホームステイという経験をしたことにより、海外での友達ができ、言語が通じ合わなくてもこんなに仲良くなれると実感しました。海外の人と話して一緒に過ごした時間は私に多言語を話すことの楽しさを教えてくれました。もっと多言語を勉強したいです。
- ・今回の交流で得た「コミュニケーション力が異文化理解を深める」という方法を2020年の東京オリンピックやその後の仕事に生かしたいです。あとは国際的な仕事に就きたいと考えているので、この経験を存分に生かしたいです。
- ・今回の韓国ホームステイは、私は全く韓国語がしゃべれなかったのですが、多少の不自由はあっても言いたいことは伝わったので、どこか外国に行ってその国の言葉がわからなくてもなんとかなるという気持ちを持って、無駄に悩むことなくいろいろチャレンジしていきたいと思います。
- ・私は今回ソウル特別市江東区への青少年交流団に参加したことで、実際に様々なことに挑戦をすることの大切さを学んだので、今後の学校生活などでもやろうかどうかと迷ったことは積極的に挑戦をしていきたいと思った。
- ・交流団において異国の異文化に住む人たちとの交流を持つことができたので、今後もその関係を続け互いのことを理解し合えるようになっていきたいと思う。また日本でも様々な外国人に会っていくと思うがその時も積極的にコミュニケーションを取っていきたい。
- ・将来は医者になりたいと考えているので、医者になったら韓国で働いてみたい。もしなれなかったとしても韓国に関係する職業に就きたい。また1人でホームステイしたことで自立への第一歩になったと思う。韓国語に興味を持ったのでもっと深く学んで自分の第2外国語にしたい。
- ・世界を意識していきたい。日本だけではなく、他の国のことも
- ・次また留学することになったら今回学んだ「人に親切にしたり、人に対してしたりしたことは自分に返ってくる」ということを念頭において、言葉は通じなくとも良い行動で相手と接し、たくさんの世界の人々と仲良くなれるグローバルな人間になりたい。

9. 今後の参加者へのアドバイスをお願いします。

- ・興味をもったことには、不安を感じてもチャレンジすることが大切だと思います。
- ・韓国の子ともっと仲良くなるためには少しでも韓国語をしゃべれるといいと思います。充実した時間を過ごすために、行きたい場所をいっぱい探しておくといいと思います。
- ・3日目くらいでせっかく仲良くなったのにすぐお別れになってしまいました。皆さんは自分から話しかけて充実した5日間を過ごしてください。
- ・心配することはありませんが、もっと積極的にたくさんの人と交流して、せっかくの良い機会を逃さないようにすると良いと思います。
- ・とにかくたくさん喋る努力をしよう！
- ・韓国語は少し覚えて行ったほうがいい。
- ・私はこの事業にあまり深く考えずに、ただ韓国に行きたいという気持ちで参加したのですが、韓国に友達が出来て、事業に参加したメンバーともとても仲良くなれて、とにかく楽しかったです。心配いりません。韓国が好きな方なら絶対楽しめます。
- ・実際に挑戦をすることが一番大事だと思うので、韓国に行って様々なことに挑戦して欲しいです、
- ・出来るだけ韓国語を使えるようにした方が良いと思います。韓国の人でも英語や日本語は上手いですがやはり韓国が一番話しやすそうだったと感じました。
- ・この研修は一生の思い出と世界に友達を作るチャンスです。是非この研修に参加して色々な経験をして将来に役立ててほしいです。少しでも韓国に興味があったら絶対に楽しい研修になると思っています。
- ・お金は計画的に使うべき。だが、躊躇して買わないと日本に帰ってとても後悔するので、迷わず買ってください。体調は気を付けて何かあったら、すぐホストファミリーに言わないと辛い思いをします。スーツケースは半分ぐらい空けて行かないとお土産が入りません。
- ・言葉が通じなかった時のことを怖がらないでほしい。なぜなら、自分が心を開いて自分自身をさらけ出さなければ相手は本当の自分を見せてくれないし、一緒に楽しい時間を過ごすことはできないから。伝えようと頑張って努力している姿に人は心を打たれてくみとろうとしてくれるはず！！

10. 来年江東区青少年交流団が来訪する際にホストファミリーをやってみたいと思いますか。

(現在のご希望で結構です。)

はい	7
いいえ	1
わからない	4

保護者の方へのアンケート

帰国後の団員の様子を見て、江東区への青少年交流団に参加させて、どう思われましたか？

大変よい	12
よい	0

- ・初めての海外旅行が今回の交流団となった娘にとって、個人旅行ではとても味わえない貴重な経験を沢山させていただきました。自分で考え、積極的に行動、仲間を大切にすることなど、目を見張る成長があった。帰国後も英語や韓国語に興味深く学ぶ姿勢も感じております。引き続きホームステイでお世話になったソユンさんファミリーとのご縁、交流を大切にしていきたいと思っております。大変な時期に、皆様のご尽力にて参加できましたこと、感謝の気持ちでいっぱいです。今後はこの経験をいかし、ボランティアなどで貢献してほしいです。本当にありがとうございました。
- ・帰国したその夜から韓国での出来事を興奮気味に報告してくれました。特にホストファミリーの方々との思い出話、一緒に行動を共にした団員の名前がたくさん出てきました。韓国と日本の社会事情が今までになく悪いモノだと考え、親としては行かせてよいものかととても迷いましたが、市役所の方々がとても親身になって相談にのってくださり、安心して送り出すことができました。日本の子どもたちを温かく迎えてくれ、たくさんのもてなしをしてくださった韓国の方々にもふれ、親としても人の善意を大切にすることを学びました。娘はさらに韓国のことが大好きになって帰ってきました。5日間の派遣事業で国は違っても皆それぞれの生活や文化、歴史があり、人を大切にすることでわかり合うことができると実感したようです。言葉の苦勞もはじめの方はあったようですが、すぐに乗り越えたそうです。このような貴重な経験をさせていただき、本当に感謝申し上げます。
- ・ホストファミリーの方々のこと、団員のメンバーのこと、今でも話をします。5日間の派遣事業で多くのことを見て感じたようです。親切な方に囲まれて過ごした韓国のこと、武蔵野市のことがとても好きになった様子です。家と学校を往復するだけの生活でしたが、高校生や市役所職員の方々、韓国のホストファミリーやペアの子たちとの出会いは息子の視野を驚くほど大きくさせてくれました。交流団に参加させていただくことができ、心から感謝しております。観光だけではなく体験するプログラムやホームステイをして韓国の方々と触れ合うことができる内容の濃い充実した派遣事業は素晴らしいと思います。多くの方が見守り関係してくださりとても心強かったです。丁寧に対応して下さった交流事業課の方々、引率の方々に感謝してもしきれません。来年韓国の子をお迎えするのが、今から楽しみです。
- ・日韓の関係が悪化している中での交流事業ということで現地の様子など心配な面もありましたが、帰国し、本人から「また韓国に行きたい。みんな親切でとても楽しかった。韓国語をもっと話せたらいいな。」と行く前よりも韓国をより身近にもっと好きになって帰ってきました。ホストファミ

リーの方にもとても親切にいただき、韓国の友人ができたとても喜んでおりました。国と国との様々な問題はありますが、市民レベルでの交流はやはり大事だと思いました。人と人とのつながり、感謝の気持ちをこの交流事業でたくさん感じたのではないのでしょうか。そしてこれから将来他の国の人達への手助けが出来ることがあれば、是非関わって行って欲しいと思います。今回ホストファミリーのご家庭の皆さん、市役所の方々、そして江東区の方々、多くの方々のご支援により無事に終えることができ、本当にありがとうございました。

- ・ 交流事業課の皆様にはこの度の派遣事業で大変お世話になりました。高校で配布されたチラシを持ち帰り、行ってみたいと自ら希望しました。韓国アイドルが大好きで独学で韓国を学んでいた息子にとって絶好の機会と思った様子でした。団員に決まったものの、日韓関係は悪化の一途をたどっていき、何時武蔵野市役所から中止の連絡が来るかと大変ヒヤヒヤしていました。当日を迎えられ、団長の方から何度も何度も派遣実施への協議を重ねて今日があると知り、関係者の方たちの思いの深さに大変感激致しました。ホームステイ先では大変歓迎して受け入れて頂き、本当の家族の様に接してもらえたとのことで感激しかありません。韓国では生活様式は似ていても少し異なる点があったり、家族内の関係性も日本よりも密接なものに感じた様子でした。韓国への旅行もしましたが、それとは全く異なることを沢山吸収し、現地の方とのコミュニケーションをとることで、メディアからは得られない生の声を聞き、自分なりに日韓関係を考えたりしていたので、とても成長を感じることができました。ホームステイ先のミンジェ君とは今もラインをして交流を深めています。素晴らしい経験は本当に宝になるということを実感できました。この様な機会を頂き、ありがとうございました。
- ・ この度は本当にお世話になりました。有難うございました。我が子はデモ、クーデターで軍事政権となった外国に暮らしていたこともあり、今回の韓国の状況についても他のご家族ほどは心配していなかったように思います。危ないとなったら中止になるだろうから、御判断はお任せしようと思っておりました。生活力の低い娘で、そちらはどうなることやらと思っておりましたが、一切お風呂の勤める習慣がないご家族（国柄？）だったようで、その中でも自分から聞いてみたりとか、食事の支度をどの程度まで手伝うか迷ったりとか、娘なりに生活のあれこれに頭を使う良い機会になった様です。良かったです。韓国語もお陰様で私の想像よりははるかに話したようです。今はよく「あーチンチャ！（怒った時）」等、気にいったフレーズを使っています。作文を読むとご家族とのやり取りを楽しみ、人間性に触れて帰ってきた様子が分かり嬉しいです。交流団の団員同士の交流もとても楽しかったようです。お陰様で安心してお任せすることができました。ありがとうございました。
- ・ 外国に初めて、しかも家族と離れて行くという体験自体がまず10代の若者の成長にとって貴重な機会になったと思う。またこの研修旅行によって、本人の世界観も大きくなったと思う。つまり日本は世界のほんの1つの国に過ぎず、多くの隣国と共にあるのだという現実を実感できたことである。さらに関係悪化が明らかになっている隣国韓国に行くということで、出発前本人も少なからず緊張を覚えたようだが、結果的に本人がその目で見えた現実が日本からの派遣団をあたたく迎えてくれた韓国の普通の人々の姿だった。こうした経験は今の情報社会の中で何が必要かを学ぶ

きっかけになったと思う。(父：今回の経験から「他者から得られる情報だけを安易に鵜呑みにするのではなく、自分の目でしっかり現実を見て考える」といった思考、態度を見に着けてほしい。また今後もこうした体験を多く積ませていきたいと考えるきっかけを得た。母：中学に入って初めての夏にこの様な貴重な体験をさせて頂き、指導して下さった武蔵野市の皆様、受け入れて下さったソウル江東区の皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。この経験を糧に広い視野を持ち、行動力を発揮できる人間として社会に貢献できるよう親としても支援していきたいと考えております。誠にありがとうございました。何年か後に同窓会があったらいいなあ～。その時に成長した姿をお見せできるように！)

- とても良い経験をさせて頂き、お世話になり、ありがとうございました。息子はそれほど積極的な性格ではなく、学校などの話もする方ではありません。しかし韓国からの帰宅後は違いました。ホストファミリーにサイクリングや外食に連れて行っていただいたこと、家での食事では食べきれないほど用意して下さったこと、英語に少し日本語を交えて話げできたことや韓国の少年団と日本の少年団との写真をたくさん見せてくれたり、とても楽しかったと話したりしてくれました。またホストファミリーの方と連絡先を交換して帰国後も連絡を取っていました。本当にいろいろな経験や韓国の方とのつながりは個人ではできないと思います。忘れられない大切な思い出になったと思います。ホストファミリーに交通費や外食代など全てお支払いして頂いたようです。後日こちらからもお礼のご連絡をさせていただくつもりですが、どうぞよろしくお伝え下さい。
- この度は派遣事業に参加させていただきまして、誠にありがとうございました。ホストファミリーの皆様には大変お世話になり、心からお礼申し上げます。バディーの女の子は中2でしたが、お兄ちゃんが娘と同じ年齢で2人とも英語が上手でとても刺激を受けて帰国してきました。日韓関係の微妙なこの時期に朝早くから夜遅くまで本当の家族のように歓迎して下さいだったので、テレビで報道されていることは一部であって、良識のある人たちもたくさんいると感じました。本人が強く望んで応募しましたので、行く前から韓国語の勉強をしたり、事前研修で学んだ歴史的遺跡を見学できたりしてよかったと話しておりました。何事も積極的に参加することによって得るものも大きいということを実感できたホームステイだったと思います。帰国後はこのホームステイがどんなに楽しく有意義だったか写真を見せながら熱く語ってくれました。交流事業課の皆様のお心遣いのおかげで無事に帰国できましたこと、心より感謝いたします。
- この度はお世話になり、ありがとうございました。親元を離れて海外へ行かせるのは初めてでしたので、慣れない環境での活動を心配しておりました。しかしホストファミリーの方々の温かい歓迎を受けて存分に楽しんできたようです。希望していた場所にも連れて行っていただき、感激しています。ホームステイや施設の見学などを通して韓国の文化を知り、現地の方々と接することで、更に韓国への興味を増したようです。日本との文化の違いを感じたことも広い視野で物事を見るためのかけがえのない経験になったと思います。朝早くから夜遅くまでお付き合いいただいたホストファミリーの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。両国の関係が難しい中、実施していただき、ありがとうございました。これからもこのような交流が続くことを願っています。

- ・もともと高校生になってから韓国のドラマを観たりアーティストの曲を聴いたりハングル語に興味をもって勉強していましたが、参加後はますます熱中し親も驚くスピードで韓国語が上達しています。訪問先やプログラム、ホームステイ全てが楽しかったようです。

また、観光の他にも韓国の文化や習慣の違いなどを感じ、体験できたようです。帰宅してからたくさん話が聞けましたし、5日間は短すぎる、韓国に帰りたいたっておりました。ホームステイ先のご家族には大変親切にしていただけたそうで、感謝しています。あちらのファミリーは英語も堪能で、コミュニケーションをとるのにさほど困ることはなかったようです。特にファミリーのお姉さんととても親しくなり、帰国後もスマホアプリで連絡を取り合い全てハングルでやり取りしているため、彼女の韓国語の上達に繋がっているようです。何より本人にとって良かったと思うのが、今後韓国語をもっと学びたい、韓国に留学したいという進路に繋がる目標ができたことです。大学受験へのモチベーションに繋がります。大学進学希望はあったもののどういう方面に進むのか、将来の希望に明確なものがなかった本人にとっては今回の交流団の参加は大きなターニングポイントになったと感じます。一緒に参加した団員の子とも仲良くなり、たった5日間プラス研修期間のみで、ずっと前からの友達の様になっていたのには驚きました。交流事業課の皆様には手厚いサポートと丁寧な研修・手配などしていただき、安心して送り出すことができました。引率の団長さん、職員の方も皆さんとても優しく、話や相談がしやすかったと話していました。大変お世話になりました。ありがとうございました。

- ・この度は大変お世話になりました。明るい子ではあるのですが、積極的な面は弱く、アウトプット（社交面や表現含む）が少し苦手です。

今回の事業に関しては、親の私の方が強く希望し応募しました。結果、思惑は大当たり！！

初めての海外、ホームステイ・・・違いを理解し、自分を表現する難しさと大切さを実感して帰ってきたようです。事前勉強を仲間とさせていただくことにより、心強かったと思います。本当に本当に参加させてくださりありがとうございました。政治情勢も良くない中だからこそ貴重な経験ともなりましたが、職員の皆様方には大変な心労があっただろうと心よりお礼申し上げます。親子共々楽しい夏となりました！